124 第3章 調査の成果

表20 土器観察表(6)

掲載 番号	種別	器種	出土 位置	地区名	層位	産地	分類・時期等	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考	挿図 番号	図版 番号
207	磁器	小瓶	KA4	С6ь03	-	瀬戸美濃	登11	1.8	2. 8	6. 0	底部外面回転糸切り痕 底部を除い た外面と口縁部に長石釉	62	24
208	陶器	小瓶	KA4	C6b04	-	瀬戸美濃	登11	-	3. 1	-	内外面回転ナデ 文様あり 体部外 面下半より上部に長石釉	62	24
209	陶器	徳利	KA4	C6b04	-	美濃	登11	3. 0	6. 5	20. 7	体部下半から底部外面回転へラ削り	62	22
210	陶器	擂鉢	KA4	C6c03	-	瀬戸	登11	39. 1	14. 1	16. 5	卸皿30条で1単位 体部下半外面から底部外面回転ヘラ削り 内外面錆 釉	63	22
211	陶器	不明	KA4	C6c03	-	常滑		23. 4	21. 4	12. 1	内外面回転指ナデ	63	22
212	土師器	焙烙鍋	KA4	C6c03	-		江戸末	35. 9	10.8	6. 1	外面回転へラ削り 口縁部外面と内 面に煤付着	63	22
213	陶器	行平鍋	KA4	C6c03	=	不明	明治	16. 8	6. 4	11.3	底部内面煤付着 体部外面下半から 底部外面に煤付着 体部外面下半か ら底部外面を除いて灰釉	63	_
223	土製品	土鈴	KA5	C6c05	-		不明	-	-	4. 3	指押さえ 指ナデ 玉推定径9mm	65	26
224	陶器	灯明皿	KA5	C6b04	-	美濃	登11	7. 5	2. 7	1.4	内面に重ね焼きのピン3ヶ所あり 底部外面回転ヘラ削り 底部外面釉 薬ぬぐいとり 灰釉	65	23
225	陶器	火入か	KA5	C6b04	-	不明	江戸	-	5. 0	(3. 2)	内面回転ナデ 外面体部下半回転へ ラ削り 外面畳目文か 内外面鉄釉	65	23
226	瓦器	火鉢か	KA5	C6d04	-		近世後期以降	-	-	11.8	外面波状文と刺突あり 内面指ナデ	65	26
227	灰釉陶器	段皿	KA6	c6d03	-		H-72	10. 9	5. 5	2. 4	内外面回転ナデ 貼り付け高台	65	23
228	陶器	反皿	KA7	C6e01	-	美濃	登3か4	12. 3	6. 3	2. 4	内外面回転ナデ 削り出し高台 灰 釉	65	23
229	土師器	焙烙鍋	KA7	C6e02	-		19世紀	32. 8	-	-	外面に煤付着	65	26
230	陶器	半胴	KA8	B5j19	-	瀬戸	登10,11	-	8.8	-	内外面鉄釉	65	24
232	須恵器	無台坏	KA9	B5 j20	-	美濃須衛	7世紀末~ 8世紀代	-	6. 6	-		65	26
233	陶器	焜炉か 蚊やりか	KA10	B6g03	-	常滑	近世	18. 8	-	-	口縁部外面にヘラで入れた沈線2条 口縁内面に方形の突起貼り付けあり 体部に突孔あり(8つか)	65	26
235	陶器	急須	KA11	B6h03	-	美濃	登10か11	-	7. 9	-	体部下半外面回転へラ削り 外面灰 釉	66	26
236	陶器	練鉢	KA11	B6h03	-	瀬戸	登11	18. 9	-	-	外面体部下半に煤付着 内外面灰釉 KA12と接合	66	26
237	陶器	練鉢	KA11	B6g03	-	瀬戸	登11	28. 0	-	-	折返し口縁 口縁部底部下半内外面 に煤付着 内外面灰釉 295と同一 か	66	26
238	陶器	練鉢	KA11	B6h03	=	瀬戸	登11	30. 0	16. 6	18. 5	底部外面回転へラ削り 底部外面に 煤付着 底部内面に釉薬拭い取り 3ヶ所あり 内外面灰釉	66	24
239	陶器	土瓶か行 平鍋	KA11	B6h03	-	不明	明治	-	7. 0	(7.5)	体部下半から底部外面にかけて煤付 着 内面と外面口縁部に灰釉	66	26
240	陶器	焜炉か 蚊やりか	KA11	B6g03	-	常滑		-	12. 0	-	体部下半内面回転へラ削り	67	26
241	瓦器	火鉢	KA11	B6g03	-		近世後期以降	-	-	-	外面ミガキ 口縁部に外面側からあけた穴3個あり(推定計8個)	67	26
242	陶器	不明	KA11	B6g03	-		不明	11. 7	-	(6. 7)	Wight a May A (1997)	67	_
248	陶器	片口鉢	KA12	B6j03	_	瀬戸	登11	8. 5	6.8	8. 3	底部内面にピン痕3ヶ所 体部外面 下半から底部にかけて回転へラ削り 体部外面下半から底部を除いて灰釉 体部下部外面に「タマリロ ロワ タ」底部外面に「(ヤマ)カ」墨書	68	24
249	瓦器	蓋か	KA12	B6 j03	-		近世後期以降	-	-	2. 7	楕円形 頂部に穴あり 外面ミガキ	68	25
250	瓦器	火鉢	KA12	B6j03	-		近世後期以降	-	21. 0	-	外面指押さえ、指ナデ 外面ミガキ 底部内面削り	68	25
253	須恵器	摘み蓋	KA13	B6105	-	美濃須衛	9世紀前葉 (V-1)	18. 0	-	-	頂部回転へラ削り	68	25
254	陶器	片口鉢	KA13	B6104	-	瀬戸	登11	12. 4	4. 8	6. 2	底部内面にピン痕2ヶ所 底部外面に「(ヤマ)カ」墨書 体部外面下部に「イワタ」墨書 内外面灰釉	68	24
255	磁器	ш	KA14	B6104	-	肥前	江戸	-	8. 2	-	内面風景画(鳥、櫓)底部外面蛇の 目高台 内外面長石釉 KA15と接合	69	25

表21 土器観察表(7)

掲載 番号	種別	器種	出土 位置	地区名	層位	産地	分類・時期等	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考	挿図 番号	図版 番号
256	磁器	Ш	KA14	B6104	-	肥前	江戸	15. 9	_	-	内面風景画(櫓か) 内外面長石釉	69	25
257	磁器	Ш	KA14	B6104	-	不明	明治	11. 3	6. 3	2. 4	底部内面「最上醤油 矢島醸造 稲 葉郡岩村」 KA18,19にも同じ文様の もの出土	69	25
258	磁器	鉢	KA14	B6e04	1	不明	明治	15. 6	6. 4	5. 8	内面梅文 底部外面「最上醬油 美 濃稲□□醸□矢□」 内外面釉薬	69	25
259	陶器	湯呑	KA14	B6104	1	不明	明治	7.8	3. 7	4. 9	高台を除いて内外面灰釉	69	_
260	陶器	菓子鉢	KA14	B6104	-	美濃	明治	11.8	6. 4	6. 7	外面回転ヘラ削り 外面に竹と松葉 内外面灰釉 KA15と接合	69	-
261	陶器	卸皿	KA15	B6m04	-	瀬戸	登8か9	11.0	-	2. 3	底部外面ヘラ削り 内外面錆釉	69	27
262	須恵器	平瓶	KA16	B6i03	-	美濃須衛	7世紀後葉 (Ⅲ-3)	11. 4	-	-	外面に波状文 320と同一個体か SD13と接合	69	25
263	陶器	卸皿	KA16	B6g04	-	瀬戸	登8か9	-	ı	-	底部外面静止へラ削り 内外面錆釉	69	27
264	磁器	台	KA16	B6h03	-	瀬戸美濃	江戸	4.0	-	-	内外面長石釉 KA11と接合	69	25
265	陶器	練鉢	KA16	B6g04	I	瀬戸	登11	-	14. 6	-	底部外面回転へラ削り 底部内面釉 薬拭い取り 体部下部から底部にか けて内外面に煤付着 内外面灰釉 294と同一か	69	27
266	土師器	鍋	KA16	B6g04	-			34. 0	-	-		69	25
269	陶器	行平鍋の蓋	KA16	B6g04	-	不明	明治	4. 4	-	(2.4)	内外面回転ナデ 内外面灰釉	70	_
270	陶器	徳利	KA16	B6g04	-	美濃	大正	2.8	-	(9.8)	外面に文字一部あり 内外面長石釉	70	_
271	陶器	半胴	KA17	B6m05	-	瀬戸	登8か9	-	20. 4	-	底部外面回転へラ削り 内外面全面 に鉄釉	70	27
272	陶器	練鉢	KA17	B6m05	-	瀬戸	登11	32. 6	17. 9	-	底部内面に釉薬拭い取り5ヶ所 底部外面回転ヘラ削り 内外面灰釉 KA11と接合	70	27
273	陶器	摺絵皿	KA18	B6m03	-	美濃	登 7	-	5. 2	-	菊花文 内外面灰釉	71	27
274	陶器	染付皿	KA18	B6m03	-	瀬戸	登 9	-	5. 0	-	内面に圏文と梅文 内外面灰釉	71	27
275	陶器	蓋物の身	KA18	B6m03	-	美濃	登10か11	6. 2	4.8	2. 9	体部下半部〜底部回転へラ削り 内 外面灰釉	71	28
276	陶器	仏餉具	KA18	B6m03	-	美濃	登10か11	-	4. 3	(2.4)	内外面回転ナデ 灰釉	71	28
277	磁器	丸碗	KA18	B6m03	-	肥前	江戸	-	3. 0	-	外面草花文か 内外面長石釉	71	28
278	磁器	碗	KA18	B6m03	-	肥前	江戸	9. 9	-	(3. 2)	梅か 内外面長石釉	71	27
279	磁器	広東茶碗	KA18	B6m03	_	瀬戸	登10	-	6. 1	-	全面長石釉 帆かけ船	71	28
280	磁器	丸碗	KA18	B6m03	-	瀬戸美濃		10. 5	-	-	底部内面「寿」か 外面花文	71	28
281	磁器	湯呑	KA18	B6m03	-	瀬戸美濃		8. 4	4. 4	6. 09	内外面長石釉	71	27
282	磁器	丸碗	KA18	B6m03	_	瀬戸美濃	江戸	-	3. 9	-	外面帆かけ船か 内外面長石釉	71	27
283	陶器	徳利	KA18	B6m03	-	美濃	明治	-	11.5	(15. 4)	底部外面回転ヘラ削り KA17と接合	71	27
284	磁器	Ш	KA19	B6m03	-	肥前	江戸	-	5. 9	(3. 1)	底部内面風景画 (鳥、帆かけ船、渡り鳥、大木、家屋、櫓) 内外面長 石釉 KA18と接合	72	27
285	磁器	Ш	KA19	B6m03	-	肥前	江戸	15. 7	9. 0	5. 1	内外面草花 (アザミか) 底部外面 蛇の目高台 内外面長石釉	72	28
286	磁器	Ш	KA19	B6m03	Ţ	肥前	江戸	1	12. 9	-	内面草花文 底部外面に1条の線	72	27
287	磁器	Ш	KA19	B6m03	-	肥前	江戸	-	10. 0	(2.5)	底部内面文様(龍、湖又は雲か)底 部外面蛇の目高台 内外面長石釉	72	27
288	陶器	染付皿	KA19	B6m03	-	瀬戸	登 9	_	3. 3	-	梅文 内外面長石釉	72	27
289	磁器	広東茶碗	KA19	B6m03	-	瀬戸	登 9	-	5.8	(4. 4)	内外面長石釉 帆かけ船	72	28
290	陶器	練鉢	KA19	B6m03	ı	瀬戸	登11	-	7. 9	(6.9)	底部内面ピン痕3ヶ所 貼り付け高台 体部下部から底部外面回転ヘラ削り KA18と接合	72	28
291	土師器	焜炉か	KA19	B6m03	_		近世	29. 8	24. 6	6. 3	内面と底部に煤付着	72	27
292	陶器	片口鉢	KA19	B6m03	_	瀬戸	明治	22. 0	_	_	口縁部外面に沈線2条 内外面灰釉	72	_
293	陶器	徳利	KA19	B6m03	-	美濃	明治	-	11.0	(4. 1)	内面に漆付着	72	27
294	陶器	行平鍋	KA19	B6m03	-	不明	明治	15. 7	-	(3. 6)	内外面灰釉	72	_
300	弥生土器	甕	包含層	B6k03	П		中期中葉以前	-	-	-	外面貝の条痕	73	28

表22 土器観察表(8)

318 須恵器 返り蓋 包含層 B6101 II 美濃須衛 (III - 3) 9.0 - - 悪い	7	番号	番号
303 今生土器 並 包含層 B6103 日 中期 中期 一 一 一 一 日縁部内面刻み、内面に具礎が出ていません。 日縁部内面刻み、内面に具礎が出ていません。 日縁部内面刻み、内面に具礎が出ていません。 日縁部内面刻み、内面に具礎が出ていません。 日縁部内面刻み、内面に具礎が出ていません。 日縁部内面刻み、内面に具礎が出ていません。 日縁部内面刻み、内面に具礎が出ていません。 日縁部内面刻み、内面に具礎が出ていません。 日縁部内面刻み、内面に具礎が出ていません。 日本の 日本の		73	28
303	7	73	28
305		73	28
20 97生工	7	73	28
306 外生主器 20 20 20 20 20 20 20 2	間に 7	73	28
307 外生土器 整 包含層 85n20 I	で刻 7	73	28
308 外生土器 20 20 20 20 20 20 20 2	7	73	28
309 外生土器 整 包含層 B6104 I (貝田町) 一	7	73	28
310 外生土器 20 20 20 20 20 20 20 2	7	73	28
	7	73	28
312 弥生土器 類 包含層 B6f02 Ⅱ	文あ 7	73	28
13 土製品 土錘 包含層 C6d0 II	7	73	28
115 土製品 陶錘 包含層 B6i02 II	7	74	28
1 日	7	74	28
11	7	74	28
317 土師器 2 2 2 2 2 2 3 3 3 3		74	28
318 須恵器 20 20 20 20 20 20 20 2		74	28
319 須恵器 低脚高坏 包含層 B6j02 一 美濃須衛 7世紀後葉 (III - 3) 10.4 一	作り 7	74	29
320 須恵器 平瓶 包含層 B6j02 - 美濃須衛 (III - 3)	7	74	_
321 須恵器 長頸壺 包含層 B6i04 II 猿投 男世紀末~ 9世紀	体 7	74	29
322 須恵器 有台坏 包含層 B6j04 II 美濃須衛 (V-1) 9世紀前葉 (V-1) - 11.4 - 323 灰釉陶器 碗 包含層 C6f02 II H-72 - 7.2 (2.1) 0-53 - 7.2 (2.1) 内外面回転ナデ 底部内面に重ね き痕あり 325 灰釉陶器 碗 包含層 B6k03 II H-72 - 7.0 2.7 内外面回転ナデ 底部内面重ね がまり 日-72 10.6 5.9 2.05 痕 貼り付け高台 口縁部 2 方向け掛け 326 灰釉陶器 皿 包含層 C6d03 II H-72 - 8.9 - 体部下半外面回転へラ削り 日-72 - 8.9 - 体部下半外面回転へラ削り 327 灰釉陶器 瓶類 包含層 B6102 II H-72 - 8.9 - 体部下半外面回転へラ削り 内外面回転ナデ 重ね焼き痕 内	刃り 7	74	29
323 灰釉陶器 碗 包含層 C6f02 0-53 324 灰釉陶器 碗 包含層 B6i01 II H-72 - 7.2 (2.1) 内外面回転ナデ 底部内面に重ね き痕あり 325 灰釉陶器 碗 包含層 B6k03 II H-72 - 7.0 2.7 内外面回転ナデ 外面浸け塗り 326 灰釉陶器 II H-72 10.6 5.9 2.05 痕 貼り付け高台 口縁部 2 方向 け掛け 327 灰釉陶器 瓶類 包含層 B6102 II H-72 - 8.9 - 体部下半外面回転へラ削り 内外面回転ナデ 重ね焼き痕 内外面回転ナデ 重ね焼き痕 内外面回転ナデ 重ね焼き痕 内外面回転ナデ 重ね焼き痕 内	7	74	29
324 灰釉陶器 椀 包含層 B6101 II	7	74	29
325 灰釉陶器 碗 包含層 B6k03 II	ね焼 7	74	29
326 灰釉陶器 皿 包含層 c6d03 II H-72 10.6 5.9 2.05 痕 貼り付け高台 口縁部2方向け掛け 327 灰釉陶器 瓶類 包含層 B6102 II H-72 - 8.9 - 体部下半外面回転へラ削り 内外面回転ナデ 重ね焼き痕 内	7	74	29
内外面回転ナデ 重ね焼き痕 内		74	29
	7	74	29
Carl Day C	为外 回転 7	74	29
329 灰釉陶器 小碗 包含層 B6103 b 百代寺 - 4.3 (1.4) 内外面ハケ塗り 底部外面回転系 1.4 り 貼り付け高台	糸切 7	74	29
330 灰釉陶器 片口鉢 包含層 B5 j20 II 百代寺 内外面ハケ塗りか 高台貼り付けて		74	29
331 山茶碗 碗 包含層 B6i02 II 美濃窯 4型式 - 8.2 - 内外面回転ナデ 高台に籾殻圧组 1 カリカロ 1 カリカ	_{良あ} 7	74	29
332 山茶碗 碗 包含層 B6i01 a 美濃窯 窯洞1 14.3 5.3 5.5 内外面回転ナデ 底部内面重ねが 痕 底部外面回転糸切り痕 籾殻 痕 内面自然釉		74	29
333 山茶碗 碗 包含層 B6h02 II 美濃窯 窯洞 1 13.2 - (4.3) 内外面回転ナデ	7	74	29
334 山茶碗 皿 包含層 B5i20 1 美濃窯 窯洞1 8.6 4.8 1.4 内外面回転ナデ 底部内面静止指 デ 底部外面回転糸切り	指ナ 7	74	29
335 山茶碗 皿 包含層 B6j01 b 美濃窯 白士原1 8.1 4.6 1.9 内外面回転ナデ 底部内面静止指	指ナ 7	74	29

掲載 番号	種別	器種	出土 位置	地区名	層位	産地	分類・時期等	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考	挿図 番号	図版 番号
336	山茶碗	碗		B5t19	-	美濃窯	明和 1	13. 1	4. 8	4.8	内外面機転ナデ 底部外面回転糸切 り 高台に籾殻圧痕あり 貼り付け 高台 底部外面墨書	74	29
337	山茶碗	ш.	包含層	不明	-	美濃窯	大畑大洞4	8. 0	4. 4	0. 7	内外面回転ナデ 底部内面静止指ナ デ 底部外面回転糸切り	74	29
338	土師器	伊勢型鍋	包含層	B6j01	-		13世紀	22. 0	-	-	外面に煤付着	74	29
339	青磁	碗か	包含層	C6c04	П		中世	1	-	-	外面に花弁文	75	30
340	青磁	碗	包含層	C6f02	II		中世	-	_	-	内面口縁部に沈潜2条 外面花弁文か	75	30
341	白磁	碗か	包含層	C6a01	П		中世	-	-	-	7条の櫛目文	75	30
342	白磁	碗	包含層	C6e03	П		中世	-	5. 9	-	内面に削った文様あり 体部下半回 転へラ削り 内外面長石釉	75	30
343	陶器	四耳壺	包含層	C6d04		古瀬戸	前ⅢかⅣ期	8. 3	-	-	内外面灰釉か	75	30
344	陶器	柄付片口	包含層	C5120	-	古瀬戸	中Ⅱ	17. 0	-	-	内外面灰釉	75	30
345	陶器	四耳壺	包含層	B6f02	П	古瀬戸	後期	-	-	-	底部外面沈潜 2 条	75	30
346	陶器	天目台	包含層	C6g03	П	古瀬戸	後IV古	-	4.8	(2.4)	内外面回転ナデ 高台を除いて鉄釉	75	30
347	陶器	卸皿	包含層	C6a02	П	古瀬戸	後IV期	11.4	-	-	内面卸皿 内外面口縁部釉薬	75	30
348	陶器	擂鉢	包含層	C6d04		古瀬戸	後IV期古	28. 0	-	-		75	30
349	土師器	土師器皿	包含層	C6f03	П		16世紀後半以降	10.8	7. 6	2. 35	口縁部に一部煤付着 内外面指押さ え指ナデ 灯明皿として使用	75	31
350	土師器	土師器皿	包含層	C5d20	п		16世紀後半以降	9.8	6. 4	1.6	内外面煤付着 特に内面に多い 外面指押さえ後指ナデ 灯明皿	75	30
351	陶器	灯明皿	包含層	C6f02	П	瀬戸美濃	大窯 3	9. 9	-	-		75	30
352	陶器	灯明皿	包含層	C6d03	II	瀬戸美濃	大窯3	9. 0	3. 4	2, 3	内外面回転ナデ 底部外面回転糸切り	75	30
353	陶器	筒型香炉	包含層	C6b01	Π	美濃	登 7	-	6. 4	(3.7)	外面柿釉	75	30
354	陶器	蓋物の蓋	包含層	B6m02	П	美濃	登8か9	7. 0	-	1.0	内外面回転ナデ 外面回転へラ削り 外面灰釉	75	30
355	陶器	小碗	包含層	C5f20	-	美濃	登8か9	1	3. 6	(2.7)	内外面回転ナデ 貼り付け高台 底 部下部から底面を除いて鉄釉	75	30
356	磁器	紅小皿	包含層	C5f20	-	肥前	江戸	-	1. 3	-	内面と外面口縁部に長石釉	75	30
357	磁器	紅小皿	包含層		-	肥前	江戸	4. 3	-	(1.2)	内面と口縁上部に長石釉	75	30
358	磁器	青磁碗	包含層	-	-	肥前	江戸	14. 3	-	(3. 5)		75	30
359	磁器	ш	包含層	B6105	-	肥前	江戸	15. 0	-	-	内外面草花 (アザミか) 内外面長 石釉	75	31
360	磁器	猪口	包含層	B6i02	П	肥前	江戸	8. 4	6.0	5. 7	風景画(鳥、木、家)	75	30
361	磁器	ш	包含層	B6n05	П	肥前	江戸	-	4. 0	-	内外面長石釉	75	30
362	磁器	ш	包含層	B5k20	Π	肥前	江戸	-	13. 0	-	風景画(鳥等)内外面長石釉	75	30
363	陶器	仏餉具	包含層	C6b04	П	瀬戸	登 9	5. 9	3. 6	5. 3	内外面長石釉 半菊文	76	31
364	陶器	甕	包含層	B6g03	-	瀬戸	登 9	38. 0	-	-	内外面鉄釉	76	31
365	陶器	秉燭	包含層	B6m03	П	瀬戸	登10	5. 4	3. 8	4. 0	内外面回転ナデ 内外面鉄釉	76	31
366	陶器	甕	包含層	B6m03	II	瀬戸	登10	33. 2	-	-	内外面鉄釉	76	31
367	陶器	蓋(皿)	包含層	C6a02	П	美濃	登10か11	7.8	3. 4	2. 0	内面に九曜文あり 内外面長石釉か 口縁部鉄釉	76	30
368	陶器	灯明皿	包含層	B6102	П	美濃	登10か11	11.6	7. 0	2. 4	体部下半回転へラ削り 内面と外面 口縁部に錆釉	76	30
369	陶器	小皿	包含層	C6b03		瀬戸美濃	登10か11	8. 4	4. 0	2. 7	高台端部以外内外面長石釉	76	30
370	磁器	丸碗	包含層	B6m05	_	瀬戸美濃	江戸	-	3.8	-	底部内面「方化年制」か	76	31
371	磁器	水滴	包含層	C5a20	П	瀬戸美濃	江戸	-	-	2. 6	内外面長石釉	76	30
372	陶器	ш	包含層	C5b20	П	瀬戸美濃	江戸	10. 4	4.8	2. 6	内外面釉薬	76	30
373	磁器	Ш	包含層	B6j04	п	瀬戸美濃	江戸	ı	7. 4	-	内面花文 内外面長石釉	76	30
374	陶器	ш	包含層	B6n04	-	瀬戸美濃	江戸	-	9. 3	-	内外面 底部外面を除いて長石釉	76	30
375	陶器	鉢	包含層	B6k02	П	瀬戸美濃	江戸	15. 4	9. 0	(5. 5)	内外面長石釉	76	30
376	陶器	手水鉢	包含層	B6m05	-	瀬戸	登10か11	28. 7	15. 4	13. 6	底部内面にピン痕6個 下地に内外 面錆釉の上に灰釉 口縁部に長石釉 と縁釉を交互に	77	31

128 第3章 調査の成果

表24 土器観察表 (10)

掲載 番号	種別	器種	出土位置	地区名	層位	産地	分類・時期等	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考	挿図 番号	
377	陶器	火鉢	包含層	B6m04	-	瀬戸	登10か11	17. 0	-	-	内面錆釉拭い取りの下地の上に灰釉 外面灰釉の上に重ね掛け	77	30
378	陶器	徳利	包含層	C6b04	-	美濃	登10か11	I	8. 4	-	体部外面回転ヘラ削り 外面灰釉	77	30
379	陶器	甕	包含層	C6c05	k	瀬戸	登10か11	ı	14. 0	-	底部内面にピン痕2ヶ所 底部外面 を除いて鉄釉	77	31
380	陶器	灯明皿	包含層	C6c03	П	瀬戸	登11	6.8	2. 3	1. 7	切り欠き幅 7 mm 体部外面下半から 底部外面にかけて回転へラ削り 内 外面灰釉	77	31
381	陶器	菓子鉢	包含層	С6ь04	П	瀬戸	登11	14.8	-	3. 9	内外面長石釉	77	30
382	陶器	擂鉢	包含層	B6m05	п	瀬戸	登11	36. 2	12. 9	14.0	卸皿30条で1単位 底部外面回転へ ラ削り 内外面錆釉	77	31
383	陶器	徳利	包含層	B6m05	-	美濃	登11	2. 2	-	(10.7)	内外面回転ナデ 外面体部下半回転 ヘラ削り 内外面灰釉	77	_
384	陶器	向付	包含層	B6n05	II	美濃	不明	13. 6	6. 4	(3.5)	内外面長石釉	77	30
385	陶器	土鍋	包含層	B6m03	П	瀬戸美濃	不明	28. 0	-	-	外面煤付着 内外面に薄く釉薬	77	31
386	土師器	火鉢	包含層	B5t20	П	常滑か	近世後期	-	-	-		78	31
387	陶器	焜炉か	包含層	B6j04	П	常滑か	近世後期	22. 8	26. 2	7. 2	内面に縦方向の突起あり	78	31
388	土師器	焙烙鍋	包含層	B6j03	П		不明	33.8	-	-	外面にスス付着 体部外面に○に万 の印あり	78	31
389	土師器	焙烙鍋	包含層	B6j04	П		不明	27. 9	-	-	内外面回転ナデ 外面に煤付着	78	31
390	土師器	焙烙鍋	包含層	B6m05	п		19世紀	27. 5	-	5. 3	口縁部外面に降帯貼り付け 内面中 央と外面全面に煤付着	78	31
403	陶器	擂鉢	包含層	B6g03	-	瀬戸	明治	17.8	8. 2	7. 9	卸目18条で1単位 内外面に煤付着 内外面鉄釉	80	-
404	陶器	擂鉢	包含層	B6m05	П	瀬戸	明治	19.8	9. 3	8. 3	体部下部から底部外面にかけて回転 ヘラ削り 内外面鉄釉	80	_
405	陶器	片口鉢	包含層	B6m03	П	瀬戸	明治	21. 1	-	(9.3)	外面回転ヘラ削り 内外面灰釉	80	_
406	陶器	練鉢	包含層	C6f02	П	瀬戸	明治	19. 5	14. 5	8. 4	底部外面回転へラ削り 底部を除い 4 て内外面灰釉 底部内面に釉薬拭い 取り5ヶ所		_
407	瓦器	不明	包含層	B6m05	-		近世後期以降	=	-	4. 2	外面に2つの突起と1つの突孔あり 内外面ともにヘラ書きの記号あり	80	31

※層位名のうちアルファベットは5 cmごとに掘削した人工層位名を示す。すなわち、a は検出面から5 cmまでの深さ、b は $5\sim10$ cmの深さを示す。

表25 石器・石製品観察表

掲載 番号	器種	遺構 名	層位	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考	挿図 番号	図版 番号
12	石鏃	SZ1	a	チャート	(1.9)	1. 7	0.6	1.5		16	32
13	粗製刃器	SZ1	b	粘板岩	7. 2	12. 7	1.6	138. 0	弥生時代	16	32
39	スクレイパー	SD5	b	チャート	5. 0	4. 5	1. 1	24. 9		29	32
114	石臼	SK17	а	花崗岩	18. 5	35. 5	7. 1	7214. 7		52	32
184	砥石	KA3	-	頁岩	(10. 1)	(4. 2)	(1.6)	90. 2		61	32
220	砥石	KA4	-	凝灰岩	(6. 0)	(4. 8)	(1.5)	52. 2		64	32
221	砥石	KA4	-	頁岩	(7. 5)	(6. 6)	(1.7)	96. 0	上部折れ欠損	64	32
295	有舌尖頭器	C6d03	П	チャート	4. 2	(2.3)	0. 7	6. 0	縄文時代草創期	73	32
296	スクレイパー	C5g20	-	めのう	3. 6	2. 7	1. 1	9. 9	縄文時代草創期か	73	32
297	石鏃	B6e02	П	チャート	2.8	1.8	0.3	1.1	縄文時代前期	73	32
298	フレイク	B6h01	П	凝灰岩	5. 0	6. 1	1. 3	29. 7		73	32
299	磨製石斧	B6e01	П	安山岩	(8. 2)	(5. 2)	(2.8)	142. 3	刃部欠損後に基部端部を使用している	73	32
412	石硯	C5a20	П	粘板岩	18. 0	7. 4	2. 1	565. 1		80	32

表26 近世以降の瓦観察表(1)

掲載 番号	器種	遺構 名・グ リッド	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当 幅縦 (cm)	文様区解	瓦当 幅横 (cm)	文様区 幅横 (cm)	周縁 高 (cm)	周縁 厚 (cm)	瓦当 厚 (cm)	瓦当文様	押印	備考	挿図 番号	図版 番号
101	丸瓦	SK17	р	-	-	-	-	(cm) -	-	-	-	-	-			穿孔有 凹面布目 角に沈線3条	51	-
102	軒桟瓦	SK17	1	-	-	1.8	5. 2	3. 0	-	-	0.6	1.0	2. 0	中央に割蔦文 脇に唐草文	左上に の 印		51	19
103	軒桟瓦	SK17	8	-	-	1. 6	4. 7	2. 6	-	-	0.5	1. 2	1.5	中央に割蔦文か 脇に唐草文			51	19
104	軒桟瓦	SK17	d	24. 6	=	1. 7	4. 7	2. 4	-	=	0. 5	0. 9	1. 7	脇に唐草文	左上に ① 印		51	-
	軒桟瓦		8	-	-	1.8	5. 0	2.8	-	-	0.7	1.1	2. 0	中央に菊花文 脇に唐草文			51	-
106	軒桟瓦		d	-	-	_	_	-	_	_	0.8	_	1.6	中央に菊花文		凹面瓦重なり	51	-
107	栈瓦	SK17	a	(23. 5)	30. 0	2. 1	_	-	-	-	-	-	-			痕	51	_
	<u>桟瓦</u> 桟瓦	SK17 SK17	а 1	29. 2	(24. 7)	1.5	_	-	-	-	_	-	-			<u>穿孔1つ</u> 凸面に記号	51 52	-
	桟瓦か		1	29. 8	-	1.8	-	-	-	-	-	-	-		ツ印	凸面に16条の 沈線 縁辺面取	52	-
	栈瓦	SK17 SK17	k d	- 29. 5	_	1.5	_	_	_	-	_	-	-		ト印	平瓦径30cm	52 52	-
113	<u>桟瓦</u> 平瓦	SK17	_ a_	-	20. 1	1. 9	_	_	_	_	-	-	_			凸面中央に3 本の刻み線	52	-
154	軒丸瓦	SK18	0	-	-	_	-	-	_	-	0. 5	2. 8	(2.5)	巴文と連珠文		外径16.0 内径11.0	57	21
155	丸瓦	SK18	n	-	15. 7	2. 2	-	-	-	-	-	-	-			凹面布目 布目後に工具 で削り	57	21
156	丸瓦	SK18	n	-	-	2. 0	-	-	-	-	-	-	-			凹面布目 凸面ヘラなで	57	21
157	軒桟瓦	SK18	b	-	-	2. 1	5. 2	2. 7	-	-	0.6	1.3	2. 3	(中央に割蔦か) 脇に唐草文(短 い)			57	-
158	軒桟瓦	SK18	b	29. 2	(21. 6)	2. 1	4. 7	3. 0	-	-	0.4	1.1	(1.9)	中央に割蔦文 脇に唐草文		穿孔1つ	57	-
	軒桟瓦		5	-	-	1.8	4. 9	2. 7	-	-	0.6	1.4	2. 0	中央に割蔦文 脇に唐草文			57	-
160	伏問瓦	SK18	5	-	20. 7	1.8	-	-	-	-	-	_	-		上印	両側縁に切断	57	21
161	道具瓦		3	(15. 9)	7.3	2. 6	-	-	-	-	-	-	-			前の目印線右側縁に切断	57	21
162	道具瓦		q	-	5. 2	3. 8	-	-	-	-	-	-	-	中央に割蔦文		前の目印線	57	21
	軒桟瓦		_	-	-	1.6	4. 5	2. 3	(26. 2)	(14. 6)	0.4	1.1	1.8	脇に唐草文 中央に割蔦文			59	-
	軒桟瓦		-	-	-	1. 7	4. 1	2. 3	-	-		1.0		脇に唐草文(細 い)			60	-
183	軒桟瓦	KA3	_	-	-	1.9	4.9	2.4	-	-	0.7	1.3	2.2	中央に菊花文脇 中央に二葉文先			61	-
214	軒桟瓦	KA4	-	-	(27. 5)	1.8	5. 2	2.9	26. 3	16. 7	0. 4	1.0	1.8	端に三点珠 脇に唐草文		234より古い か	64	25
	軒桟瓦		-	(22. 5)	-	2.0	4.6	2. 5	-	-	0.5	1.1	1.9	中央に割蔦文 脇に唐草文			64	-
216 217	軒桟瓦	KA4 KA4	_	- (25. 5)	-	2. 1	(5. 6)	2.6	-	-	0.5	1.6	2.2		△ Ľ⊓		64 64	-
218	桟瓦	KA4	-	-	-	1.8	-	_	-	-	-	_	-		日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日		64	-
219	<u>桟瓦</u> 軒桟瓦	KA4	_	_	_	1. 8 2. 0	4.7	2. 3	(28. 4)	(14.2)	0. 5	1. 2	2. 2	中央に菊花文	西印		64 65	_
231	平17发几	KAO				2.0	4. /	2. 3	(20, 4)	(14. 2)	0. 5	1. 2	2.2	脇に唐草文 中央に宝珠文・			00	
234	軒桟瓦	KA10	-	-	-	1.8	4.8	2.5	(27. 0)	(15. 8)	0.6	1. 1	2. 1	二葉文・三点珠 脇に唐草文			65	_
243	軒桟瓦	KA11	-	-	-	1.8	4. 7	2.6	(25. 6)	(15. 6)	0.5	1. 1	1.8	中央に宝珠文・ 二葉文・3点珠 脇に唐草文			67	-
	軒桟瓦		П	-	-	1.8	5. 3	2.8	(28. 0)	(15. 6)	0.8	1.4	2.0	中央に菊花文 脇に唐草文	Orn.		67	-
	栈瓦	KA11	-	29. 4	28.8	2. 2	_	_			_	-	_		6	先端上部に面	67	
	栈瓦	KA11	_	-	-	2. 0	_	_	-	-	_	_	_		●印	取	67	-
247	桟瓦	KA11	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-		●印		67	-

130 第3章 調査の成果

表27 近世以降の瓦観察表(2)

掲載 番号	器種	遺構 名・グ リッド	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当 幅縦 (cm)	文様 区 幅縦 (cm)	瓦当 幅横 (cm)	文様区 幅横 (cm)	周縁 高 (cm)	周縁 厚 (cm)	瓦当 厚 (cm)	瓦当文様	押印	備考	挿図 番号	図版番号
251	軒桟瓦	KA12	-	1	(29. 1)	1.8	5. 1	2.8	(25. 0)	15. 1	0. 7	1. 2	2. 1	中央に菊花文 脇に唐草文	右上に ⑤ 印	上下端部面取 高さ8.7cm	68	-
252	軒桟瓦	KA12	-	I	-	1. 9	4.8	2. 4	-	-	0.6	1.3	2. 4	中央に菊花文 脇に唐草文			68	-
267	軒桟瓦	KA16	П	I	(24. 2)	2. 0	4.8	2.6	(24. 2)	15. 4	0. 7	1.8	2. 1	中央に菊花文 脇に唐草文	左下に 〇 印	上下端部面取	70	-
268	軒桟瓦	KA16	П	I	-	1. 9	4. 9	2. 7	-	-	0.6	1.3	2. 0	脇に唐草文	左上に 〇 印		70	-
391	軒丸瓦	B6k04	П	-	15. 4	1.8	-	-	-	-	0. 5	2. 2	2. 6	三巴文(左巻)と 連珠(12)		外径16.0 内径12.0	79	31
392	軒桟瓦	B6h04	-	-	(26. 0)	2. 2	5. 3	3. 0	(28. 0)	14. 8	0. 5	1. 1	2. 2	中央に割蔦文 脇に唐草文	左上に ① 印	上下端面取	79	27
393	軒桟瓦	B6m03	П	-	-	2. 2	-	_	-	-	0. 5	1. 2	-	中央に割蔦文か 脇に唐草文(細 い)			79	-
394	軒桟瓦	B6g03	-	-	-	2. 0	5. 1	2. 4	(25. 2)	(15. 0)	0. 7	1. 4	2. 1	中央に割蔦文 脇に唐草文(細 い)			79	-
395	軒桟瓦	B6i03	П	ı	-	1. 9	5. 0	2. 3	(26. 0)	(13. 2)	0. 7	1. 7	2. 1	中央に菊花文 脇に唐草文		高さ8.8cm	79	-
396	軒桟瓦	B6i03	П	I	-	1.8	4. 7	1.8	-	13. 0	1.5	0.5	1. 9	中央に菊花文 脇に唐草文			79	-
397	軒桟瓦	B6m03	П	(24. 9)	-	1. 7	4.8	2.8	-	-	0. 7	1.2	2. 2		右上に ① 印		79	-
398	軒桟瓦		-	I	-	2. 1	4. 3	2. 3	-	-	0. 5	1.0	2. 3	脇に唐草文	右上に の 印		79	-
399	軒桟瓦	B6i02	Π	-	-	1.7	4. 1	2.0	-	-	0.5	1.1	1.9	脇に唐草文			79	-
400	軒桟瓦	B6m05	-	-	-	1.8	-	-	-	-	-	1	-		大印	上端部面取	78	-
401	桟瓦	C6c04	a	-	-	1.9	-	-	-	_	-	1	-				78	-
402	桟瓦	B6g03	-	-	-	2. 0	-	-	-	_	-	-	ı		⊖申		78	-

表28 金属製品観察表

30,20	业和权叫	7077									
掲載 番号	器種	遺構名・ グリッド	層位	素材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考	挿図 番号	
71	装飾具	SK7	u	銅	5. 5	2. 8	0. 1	10. 2	裏面に繊維痕あり 2つずつの布を とめる穴がある	44	32
99	古銭	SK17	m	銅	(2.4)	(2.3)	0. 1	2. 1	寛永通寶	50	32
100	古銭	SK17	f	銅	(2. 1)	(2. 1)	0. 1	2. 1	寛永通寶 薄い	50	32
176	煙管吸い口	KA2	-	銅	9. 5	1. 1	0. 1	14. 2		60	32
222	煙管吸い口	KA4	-	銅	5. 0	1. 3	0. 1	7.4		64	32
408	煙管吸い口	C5c20	П	銅	4. 6	1.0	0. 1	8. 7		80	32
409	櫛	C6c03	II	銅	9. 1	1.5	0. 1	2. 6	中央部付近で折れ曲がっている	80	32
410	不明	B6f04	П	鉄	5. 0	5. 0	0. 5	41.3	断面台形	80	32
411	刀子か	B6h04	-	鉄	14. 2	2. 1	0. 4	53. 6	両側縁部両刃	80	32

第4章 総括

今回の調査では、弥生時代の方形周溝墓や、安土・桃山時代の区画溝、江戸時代の溝、土坑などを 検出し、約4,300点の遺物が出土した。本章では、遺構として方形周溝墓と中近世の集落の変遷、出 土遺物として出土遺物の分布、中近世陶磁器の計量分析等に焦点を絞り、地域史のなかでの当遺跡の 位置付けを検討する。

1 出土遺物の分布

出土遺物分布図 (図 95・96) からは、時代別に分布範囲が異なっていることが読み取れる。

弥生時代においては、弥生時代中期中葉の土器が清水山に近い北調査区の南側に集中している。出 土弥生土器の49%が中期の土器で、中葉と後葉がほとんどである。

須恵器は北調査区中央部に多く集中している。須恵器は6世紀~9世紀前葉まであるが、多くが7世紀後葉~8世紀初頭のもので40%をしめる。壺・瓶・甕が64%をしめ、そのなかでも平瓶・提瓶・横瓶が多い。円面硯の脚部も1点出土し

ている(表30)。

13~15世紀の遺物は北・南の調査区両 方に出土範囲が広がる。13~14世紀の山 茶碗以外の遺物は、南調査区から出土し ている。16世紀の遺物は南調査区のみか らの出土で、南調査区北側の区画溝SD

表29 弥生土器点数表

時期	高坏	壺	甕	甕か壺	不明	合	計	
中期		3	2			5		
中期前葉			5			5	130	
中期中葉		1	63			64	130	
中期後葉	8	26	20	2		56		
後期	1	5	5			11	11	
不明	5	12	75		34	126	126	
合計	14	47	170	2	34	267		

表30 須恵器点数表

	地時期	返り 蓋	摘み 蓋	蓋	坏身	有台 坏	無台坏	坏類	低脚 高坏	高坏	有台 盤	壺か 鉢	ハソウ	提瓶 か横 瓶	平瓶	瓶類	甕	円面硯	不明	合	·計
6~7世紀	不明											1								1	1
7世紀中葉	不明	1																		1	1
	美濃須衛															5				5	
7 世紀	美濃須衛周辺											1								1	10
7 压水口	猿投															1				1	10
	不明														2	1				3	
	美濃須衛	2				1			2	1		4		2	6	3	12			33	
7世紀後葉	猿投か								1	1							46			48	86
	不明						3			2										5	
7世紀後葉 ~8世紀初	美濃須衛		2				3	2				1	1					1		10	10
7~8世紀	猿投																1			1	5
7 - 8 压水口	不明		4																	4	J
8世紀	美濃須衛							1								1				2	3
	不明					1														1	ٿ
8~9世紀	不明					1														1	
8世紀後半~ 9世紀前葉	美濃須衛										1									1	5
9世紀前葉	美濃須衛		1	2																3	
	美濃須衛						2			1		3				9	4			19	
不明	美濃須衛周辺																1			1	119
"	猿投															1	4		4	9	115
	不明	1		6	6		1	2				2				9	32		31	90	
	合計	4	7	8	6	3	9	5	3	5	1	12	1	2	8	30	100	1	35	24	40
			19			2	23			3	1			53			100	1	35		

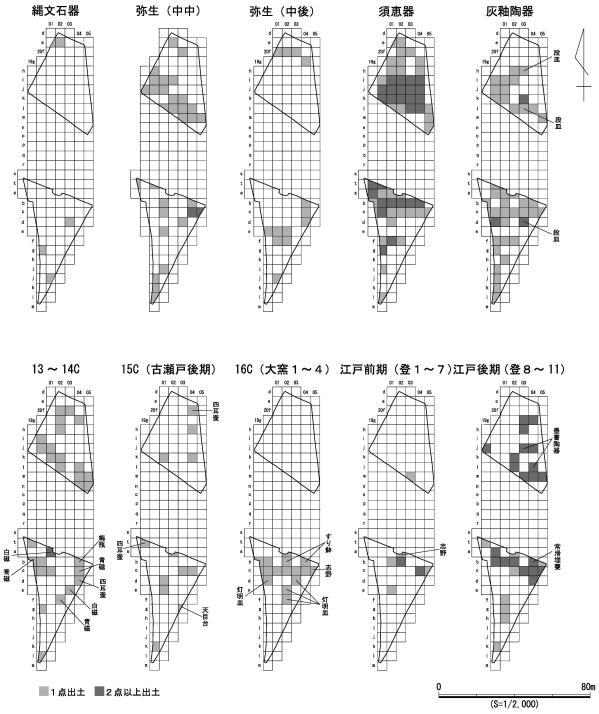


図 95 出土遺物分布図 (1)

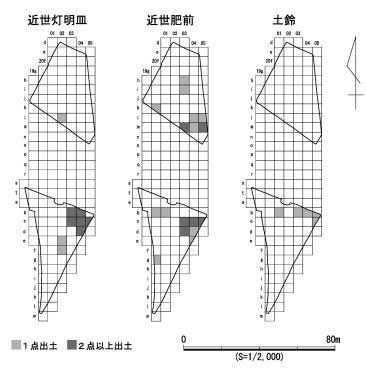


図 96 出土遺物分布図 (2)

9付近に集中する。SD9で区画 する敷地内から大窯の灯明皿が出 土している。中世の遺物は区画溝 付近から出土する傾向がある。

江戸時代後期の遺物は北調査区の東側と南調査区北側に集中し、 特に灯明皿は南調査区北東隅に集中する。

2 方形周溝墓

当調査区から検出された2基の 方形周溝墓の概要は次のとおりで ある。

SZ1は墳丘規模が南北方向で 9.6m、周溝まで含むと南北方向で 約14mである。東西方向は調査区 外に及ぶため全容は不明である。 周溝の最大幅が約2.2m、周溝の

深さは約 0.5mで、その形状は一隅切断型で正方形になると推定する。SZ2は墳丘規模が南北方向で約7.5m、東西方向は中世以降の撹乱を受け不明である。周溝の最大幅が1.5m、周溝の深さは0.17mで、その形状は方形である。SZ1とSZ2は14m離れている。

SZ1から出土した土器は、高坏・壺・甕で、この内の甕は周溝底面直上に正位で据えられていた。 甕は近江湖南型平底甕で、口縁部を故意に打ち欠いている。本体と接合した口縁部は、甕本体周辺からと、少し離れて赤彩のある壺の近くから出土している。甕は内外面に煤が付着し、使用したものを据えている。壺も口縁部を打ち欠いている。壺の打ち欠いた口縁部は出土していない。壺は重厚な作りで形状は中期末だが赤彩を施している点から後期のものと考える。高坏は盤状長脚の有段高坏の形状に近が、坏部がやや深く、椀型に近い。甕と高坏は近江方面との交流を示す資料である。西との交流、独立する方形周溝墓など後期に展開する要素が多い。以上の点から、SZ1の時期は弥生時代後期初頭、八王子古宮I式併行期と考える。

SZ2はSZ1に比べると撹乱を受け、残りが悪く、出土遺物も包含層からの出土がほとんどである。周溝周辺の包含層出土遺物の中でも胎土の白い土器を方形周溝墓に関係する土器と考える。SZ2からは、高蔵式の高坏・細頸壺・甕と、三河からの搬入品で古井式の土器が出土しており、これらの土器からSZ2の時期を弥生時代中期後葉と推定する。方形周溝墓の形状がSZ1は角があり大きいのに対して、SZ2の形状は角が丸く小さいことからも時期差があると考える。

当調査区の南で岐阜市教育委員会が調査した当遺跡から検出された方形周溝墓は4基で、隣接した 状態で検出されている。周溝を共有しているものもみられる(図 97)。

4 基とも弥生時代後期の時期のも のと考えられ、墳丘規模は9m以下 である (表 32 参照: 平成 21 年度現 地公開資料より)。

岐阜市内で確認された方形周溝墓 は上記の6基で、当調査区で確認さ れたSZ1は、一辺の長さや周溝の 幅から弥生時代後期の中でやや大き い規模のものになる(図98)。

県内の方形周溝墓の形状と時期の グラフから、弥生時代中期の方形周 溝墓は全周型正方形、一隅切断型が 多い。弥生時代後期は一隅切断型が 多く、弥生時代末~古墳時代初頭は コ字型が多い。これは関市深橋前遺 跡の丘陵の斜面に作られた方形周溝 墓のデータが影響しているものと思 われる。この遺跡は同一丘陵上に方 形周溝墓と集落が形成されている。 このグラフからは、弥生時代後期を ピークに、古墳前期にかけて徐々に 方形周溝墓が減っていく様子がうか がえる。弥生後期のデータには弥生 後期から古墳時代初頭のものも含ま れている。このグラフと、当調査区 で検出された方形周溝墓の形状を比 較すると、SZ1は一隅切断型、S Z2はL字型と推定される。



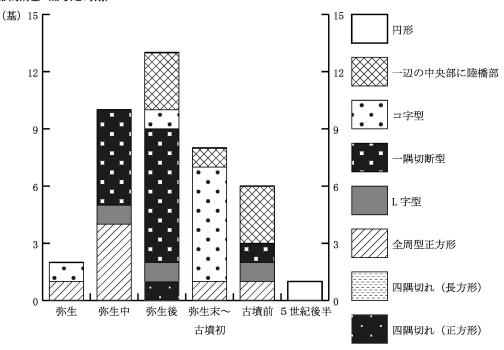
図 97 岩田東 A 遺跡方形周溝墓

県内の方形周溝墓大きさと時期のグラフから、大きさの分布が大・中・小の3つのグループに分け られる。大グループは 14.5m以上のグループで、弥生時代末から古墳時代前期のグループになる。中 グループは5m以上~14.5m未満のグループで、弥生時代中期と後期のほとんどのものがこの中に入 る。その中で更に小・中・大と大きさに違いがみられる。

小グループは5m未満のグループで弥生時代末~古墳時代初頭が多い。弥生時代末から方形周溝墓 の大きさに格差がみられる。15m以下のものが弥生時代で、当調査区で検出されたSZ1は中グルー プの中でも大きいものである。当遺跡から検出された方形周溝墓も中グループの中におさまる。

SZ1からは近江系の甕と高坏が出土し、SZ2からは三河地域からの搬入の壺片が出土している。

県内方形周溝墓(形状と時期)



県内方形周溝墓(大きさと時期)

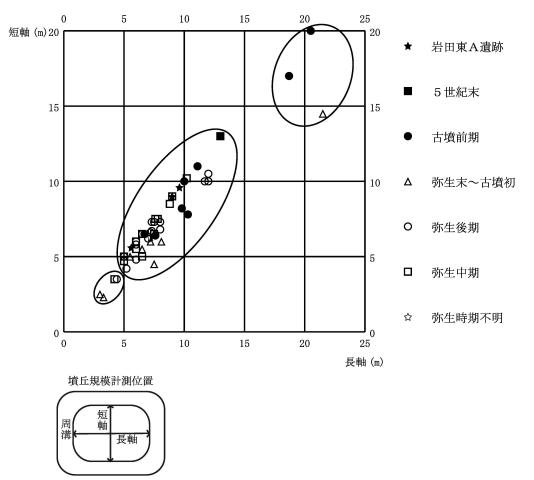


図 98 方形周溝墓形状・大きさと時期のグラフ

また、当調査区の包含層からは中期中葉の中部高地栗林式の土器が1点(302)、中期で飛騨の横羽状文と思われる破片が1点(301)出土しており近江以外の地域との交流もうかがえる。

県内や愛知県で近江系の甕(近江湖南型平底甕)や高坏(盤状高坏)が出土している遺跡、また三河地域の土器が出土している遺跡は以下のようである。川原遺跡の方形周溝墓(SZ01,04,05)からは盤状高坏が、八王子遺跡の竪穴住居跡(SB12,33,48)からは近江湖南型平底甕が出土し、その内 SB12,48からは盤状高坏と近江湖南型平底甕が出土している。朝日遺跡の溝跡(SDVc)からは近江系の甕が出土し、方形周溝墓(SZ162)から盤状高坏が出土している。東町田遺跡の方形周溝墓(SZ06)からは三河地域からの搬入品の土器片、SD08からは三河地域からの搬入品の広口壺が出土し、SD09とSB02からは八王子古宮Ⅰ式の甕が出土している。荒尾南遺跡からは平成6年度に当センター調査の墓域の包含層と流路のⅠ層から近江系の甕が、大垣市調査の、荒尾南遺跡Ⅱで報告のSZ04からは近江系の甕体部破片が、荒尾南遺跡Ⅲで報告のSD05からは近江からの搬入品の甕が2点出土している。

筆者の探し漏れもあるとは思うが、近江系の甕と高坏の両方が一つの遺構から出土している例は八 王子遺跡の竪穴住居跡のみで、当遺跡のSZ1のように方形周溝墓から近江系の甕と高坏が出土して いる例は今のところ見つかっていない。

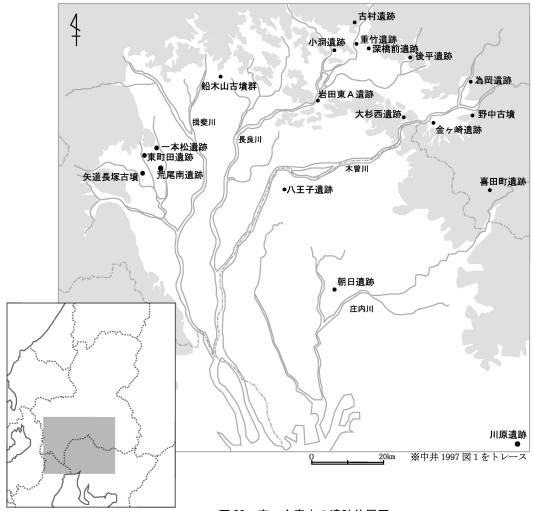


図 99 表・文章中の遺跡位置図

表31 岐阜県内の方形周溝墓(1)

	遺跡名	所在地	掲載遺構番号	時期	形状	長軸(m)	短軸(m)	周溝幅(m)	周溝深さ(m)	出土品
1	ツルネ遺跡	高山市	1	弥生時代	6	7. 2	6. 3	0.6~1.3	0. 2	ガラス小玉、高坏
2	重竹遺跡	関市	1	弥生時代	3	9. 0	9. 0	0.5~0.8	0. 2	弥生土器、磨製石斧、石鏃
_	東町田遺跡	大垣市	SZ04	弥生時代中期	5	10. 2	10. 2	2. 3	0.3~0.8	壺
4	東町田遺跡	大垣市	SZ05	弥生時代中期	5	7. 5	6. 5	1. 4	0.2~0.5	鉢か
-	東町田遺跡	大垣市	SZ06	弥生時代中期	5	6. 5	6. 5	1.3	0.1~0.7	壺、三河からの搬入品
\rightarrow	東町田遺跡	大垣市	SZ07	弥生時代中期	3	7. 6	7. 5	1.9	0.8	高坏、壺、甕
\rightarrow	東町田遺跡	大垣市	SZ12	弥生時代中期	不明	不明	不明	1.1~1.3	0.5~0.6	壺、甕
\rightarrow	東町田遺跡	大垣市	SZ13	弥生時代中期	不明	9. 0	9. 0	1.5	0. 2~0. 3	壺、甕
_	東町田遺跡	大垣市	SZ14	弥生時代中期	不明	不明	不明	1, 4~2, 0	0.5~0.7	壶、甕
-	東町田遺跡	大垣市	SZ15	弥生時代中期	不明	不明	不明	1.0~1.2	0.4~0.6	壶、方柱状片刃石斧
\rightarrow	東町田遺跡	大垣市	SZ17	弥生時代中期	5	8.8	8. 5	0.9~1.6	0.1~0.8	壺、甕、三河系壺
\rightarrow	東町田遺跡	大垣市	SZ18	弥生時代中期	4カュ	推定7.5	推定6.2	1. 2~1. 4	0.1~0.6	三河系太頸壺
_	東町田遺跡	大垣市	SZ19	弥生時代中期	不明	5. 0	5. 0	1.0	0.1~0.4	土器小片
-	東町田遺跡	大垣市	SZ20	弥生時代中期	不明	推定6~7	推定6~7	1, 3~2, 0	0.1~0.5	甕
\rightarrow	東町田遺跡	大垣市	SZ21	弥生時代中期	5か	不明	不明	1.0~2.0	0. 7	小型壺
\rightarrow	荒尾南遺跡	大垣市	SZ01	弥生時代中期	不明	7. 0	不明	1.6~2.5	0. 45	高坏、器台、壺、甕
-	荒尾南遺跡	大垣市	SZ02	弥生時代中期	3	4. 2	3, 5	0.8~0.9	0.1~0.2	壶、甕
_	荒尾南遺跡	大垣市	SZ02	弥生時代中期	4	不明	推定3.8	1.3~1.6	0.1~0.2	壺、甕
-	荒尾南遺跡	大垣市	SZ04	弥生時代中期	3	6. 0	5.5	3. 2~3. 9	平均0.3	高坏、壶、鉢
-	荒尾南遺跡	大垣市	SZ05	弥生時代中期	3	5. 5	不明	1.9~2.0	0.4~0.5	高坏、壺、甕
\rightarrow	荒尾南遺跡	大垣市	SZ5	弥生時代中期	不明	推定10.0	不明	2.0	0.4	虚型土器、 甕型土器 、石器
-	矢道長塚古墳			弥生時代中期	不明	6. 0	6. 0	1, 2~1, 6	0. 4	毫
_	矢道長塚古墳		SX03	弥生時代中期	不明	6. 5	5. 0	0.9~1.2	0. 2	壺
-		大垣市	SX04	弥生時代中期	不明	5. 0	4. 7	0.4~0.5	0. 2	壺
\rightarrow	矢道長塚古墳		SX05	弥生時代中期	不明	不明	不明	1. 2	0. 2	整
\rightarrow	矢道長塚古墳	-	SX06	弥生時代中期	不明	不明	不明	1.5	0. 2	,,,,
27	一本松遺跡	大垣市	SZ01	弥生時代中期末	不明	推定8.0	推定8.0	1. 0	0. 3	
28	一本松遺跡	大垣市	SZ02	弥生時代中期末	不明	推定15.0	推定12.0	2.5~3.0	0.8~1.2	高坏、壺、甕
-	東町田遺跡	大垣市	SZ03	弥生時代中期後半	5	7.8	7. 5	1, 2~1, 3	0.7	小型高坏、壺
\rightarrow	中野大洞平遺跡	古川町	1	弥生時代後期	5	8. 5	不明	1.5~1.6	0.3~0.8	7 = 1,00 1 = 1
\rightarrow	中野大洞平遺跡]		1	弥生時代後期	1	6. 0	6. 0	0.6~1.3	0.1~0.7	高坏、器台、壺、甕
-	荒尾南遺跡	大垣市	SZ1	弥生時代後期	不明	11.0	不明	1.3~3.3	0. 2~0. 4	
	荒尾南遺跡	大垣市	SZ2	弥生時代後期	不明	不明	不明	1.5~1.8	0. 2~0. 4	壺、高坏、小型鉢
-	大杉西遺跡	関市	SZ1	弥生時代後期	不明	推定5.0	推定5.0	0.5	0. 5	高坏、壺、甕
	喜多町遺跡	多治見市		弥生時代後期後半	5	5. 2	4. 2	0.8~1.0	0.2~0.3	高坏、小型壶、赤彩小型鉢、赤彩小型台付甕
36	舟木山古墳群	糸貫町・本巣町	1号方形周溝墓	弥生時代後期後半	4	12. 0	10. 0	1. 1	1.0	加飾壺、器台、鉢
37	古村遺跡	美濃市	SZ01	弥生時代後期末~古墳時代初頭	5	7. 5	7. 3	1.2~1.7	0.7~1.2	高坏、パレス壺、鉢
38	古村遺跡	美濃市	SZ02	弥生時代後期末~古墳時代初頭	5	5. 0	5. 0	0.8	0.3~0.4	高坏、壺
_	古村遺跡	美濃市	SZ03	弥生時代後期末~古墳時代初頭	7	7. 3	6. 7	1.0~1.2	0.7~0.9	高坏、器台、壶、甕
_	古村遺跡	美濃市	SZ04	弥生時代後期末~古墳時代初頭	不明	6. 8	不明	1.2~1.5	0.5~0.8	高坏、小型鉢
41	古村遺跡	美濃市	SZ05	弥生時代後期末~古墳時代初頭	5	7. 0	6. 2	1.5~2.6	0.5~0.9	高坏、加飾壺、鉢、甕
-	古村遺跡	美濃市	SZ06	弥生時代後期末~古墳時代初頭	5	7. 2	6. 6	1.8~2.0	0.5~0.8	高坏、器台、パレス壺、鉢、甕
43	古村遺跡	美濃市	SZ07	弥生時代後期末~古墳時代初頭	5	6. 5	6. 5	1.7~3.3	0.4~0.6	高坏、器台、パレス壺、鉢、甕
\rightarrow	古村遺跡	美濃市	SZ08	弥生時代後期末~古墳時代初頭	不明	8. 5	不明	1.6~2.0	0.3~0.5	高坏、パレス壺、甕、ミニチュア土器
\rightarrow	古村遺跡	美濃市		弥生時代後期末~古墳時代初頭	不明	不明	不明	1. 4	0. 2	高坏、鉢、甕
-	古村遺跡	美濃市	SZ10	弥生時代後期末~古墳時代初頭	7	7. 3	7. 3	0.8~1.7	0.4~0.7	高坏、パレス壺、甕
-	古村遺跡	美濃市	SZ11	弥生時代後期末~古墳時代初頭	不明	不明	不明	1. 2	0. 2	甕
-	古村遺跡	美濃市	SZ12	弥生時代後期末~古墳時代初頭	7カュ	推定7	不明	0.7~1.0	0.2~0.3	壶、甕
49	古村遺跡	美濃市	SZ13	弥生時代後期末~古墳時代初頭	6	8. 0	6.8	0.6~1.2	0.2~0.4	高坏、器台、パレス壺、手焙形 土器、鉢、甕
50	古村遺跡	美濃市	SZ14	弥生時代後期末~古墳時代初頭	不明	不明	不明	1.8	0. 4	・甕
51	古村遺跡	美濃市	SZ15	弥生時代後期末~古墳時代初頭	不明	推定6.5	推定5.5	1.0	0.4~0.6	高坏
52	古村遺跡	美濃市	SZ16	弥生時代後期末~古墳時代初頭	不明	不明	不明	1.2~1.6	0. 5	高坏、壺、甕
53	古村遺跡	美濃市	SZ17	弥生時代後期末~古墳時代初頭	不明	不明	不明	1.2~2.2	0.4~0.6	高坏、加飾壺
54	古村遺跡	美濃市	SZ18	弥生時代後期末~古墳時代初頭	不明	不明	不明	1.2	0.3	高坏、甕
55	大杉西遺跡	関市	SZ2	弥生時代後期~終末期	不明	推定3.0	推定3.0	0.3	0. 2	鉢
- 1	大杉西遺跡	関市	SZ3	弥生時代末	不明	4.8	不明	0.4	0. 2	高坏、壺、甕
56	八小夕日、园坳	124-11								

表32 岐阜県内の方形周溝墓(2)

	遺跡名	所在地	掲載遺構番号	時期	形状	長軸(m)	短軸(m)	周溝幅(m)	周溝深さ(m)	出土品
58	為岡遺跡	14.4.00.0	2号方形周溝墓	弥生時代後期~古墳時代初頭	不明	推定6.5	不明	0.6~1.4	0.3~0.6	,
_	為岡遺跡			弥生時代後期~古墳時代初頭	不明	6.0	4. 8	0.8~1.0	0.2~0.4	高坏
				弥生時代後期~古墳時代初頭	不明	推定6.9	推定4.8	1. 4	0. 7	高坏・壺
	為岡遺跡			弥生時代後期~古墳時代初頭	不明	4. 4	3. 5	1. 0	0. 2	
	為岡遺跡			弥生時代後期~古墳時代初頭	不明	推定4.5	推定3.5	1.6~1.8	0. 5	円礫
	為岡遺跡			弥生時代後期~古墳時代初頭	5	8.0	7. 3	1. 2	0. 3	高坏、壺
	為岡遺跡			弥生時代後期~古墳時代初頭	不明	6. 0	5. 8	0.6	0. 2	高坏、甕
	為岡遺跡			弥生時代後期~古墳時代初頭	不明	不明	不明	1.5	0. 4	壺
	為岡遺跡			弥生時代後期~古墳時代初頭	不明	推定3.0	不明	0.8	0. 2	
				弥生時代後期~古墳時代初頭	不明	不明	不明	0.8	0. 5	高坏
	為岡遺跡			弥生時代後期~古墳時代初頭	不明	6.0	推定5.5	1. 0	0. 3	器台
				弥生時代後期~古墳時代初頭	不明	不明	不明	0, 8	不明	
				弥生時代後期~古墳時代初頭	不明	推定7.0	推定7.0	0.6~0.8	不明	壺
		大垣市		弥生時代後期~古墳時代前期	3or5	12. 2	10.5	0.8~3.0	0.1~0.9	高坏、壺、鉢、甕、ミニチュア土器
_	東町田遺跡	大垣市		弥生時代後期~古墳時代前期	7	11. 7	10. 0	0.8~3.0	0.1~2.5	高坏、パレス壺、器台(前方後方形周溝墓)
	東町田遺跡	大垣市	SZ11	弥生時代後期~古墳時代前期	 不明	推定14.0	推定14.0	0.5~0.8	0.3~0.4	高坏、壶、鉢
	小洞遺跡	関市	SZ1	弥生時代末~古墳時代初頭	6	7. 2	6. 0	1.5~3.0	0.6	南
	小洞遺跡	関市	SZ2	弥生時代末~古墳時代初頭	6	8. 1	6. 0	2. 0	0. 5	高坏、パレス壺
	深橋前遺跡	関市		弥生時代末~古墳時代初頭	6	5. 5	5. 0	1.3	0. 5	Index () . A NAME
	深橋前遺跡	関市		弥生時代末~古墳時代初頭	6	3. 0	2. 5	1.1	0. 3	高坏、小型広口壺、甕
	深橋前遺跡	関市		弥生時代末~古墳時代初頭	6	7.5	4. 5	1. 6	0. 5	高坏、壶、甕
	深橋前遺跡	関市		弥生時代末~古墳時代初頭	6	3.3	2. 3	0. 9	0. 2	高坏、器台、鉢、甕
		国府町	1	弥生時代末~古墳時代初頭	不明	不明	- Z: 3 - 不明	不明	不明	不明
		国府町	2	弥生時代末~古墳時代初頭	不明	不明	不明	不明	不明	不明
	野中遺跡	多治見市		弥生時代末~古墳時代初頭	不明	推定5.3	不明	0.7~1.2	0.3~0.4	台付甕、高坏
_	後平遺跡	富加町		你生時代末~古墳時代初頭	3	6.5	5. 5	0. 7 - 1. 2	0.3~0.4	高坏、器台、甕
	東町田遺跡	大垣市	SZ01	- 你生時代後期末~古墳時代前期	5or6	7.5	6. 5	0. 5	0.1~0.2	壺
	東町田遺跡	大垣市	SZ16	弥生時代後期末~古墳時代前期	50r6	推定6.0	推定6.0	1.6	0.1 -0.2	显
	東町田遺跡	大垣市	SZ02	古墳時代初頭	7	21.5	14. 5	1.5~3.4	0.2~0.9	パレス壺、甕、石臼、紡錘車 (前方後方形周溝墓)
87	上町遺跡	古川町	1	古墳時代前期	7	6. 7	6. 5	0.6~1.0	0. 2~0. 35	赤彩壺、小型甕
88	荒尾南遺跡	大垣市	SZ4	古墳時代前期	不明	推定6.0	不明	0.7~1.4	0. 3	高坏、壶、小型鉢、甕、蓋、砥石
89	舟木山古墳群	岐阜市	277号墳	古墳時代前期	不明	21. 0	不明	4.0~5.0	1.5~2.0	高坏、壺、甕
		御嵩町	SX01	古墳時代前期	7	20. 5	20. 0	0.8~2.0	0.2~0.8	高坏、鉄製品(前方後方形周溝墓)
91	金ヶ崎遺跡	御嵩町	SX02	古墳時代前期	7	18. 7	17. 0	1.7~4.7	0.1~0.3	高坏、壺、甕、鉄剣
92	金ヶ崎遺跡	御嵩町	SX03	古墳時代前期	3	11. 1	11. 0	1.4~2.6	0.1~0.7	高坏、器台、壺、甕
93	金ヶ崎遺跡	御嵩町	SX05	古墳時代前期	不明	9.8	8. 2	1.9~3.5	0.1~0.5	高坏、甕、鉢、壺、銅鏃、管玉、勾玉
94	金ヶ崎遺跡	御嵩町	SX06	古墳時代前期	不明	不明	不明	不明	不明	
95	金ヶ崎遺跡	御嵩町	SX07	古墳時代前期	不明	不明	不明	不明	不明	
_		御嵩町	SX09	古墳時代前期	5	10.0	10. 0	1.4~4.8	0.1~0.4	高坏、甕、壺、打製石斧、石庖丁
97	金ヶ崎遺跡	御嵩町	SX11	古墳時代前期	不明	10. 3	7.8	1.7~4.1	0.03~0.2	
		御嵩町	SX12	古墳時代前期	不明	7. 6	6. 4	0.9~2.6	0.03~0.2	高坏、壺
		御嵩町	SX13	古墳時代前期	4	7. 1	不明	0.8~1.5	0.03~0.07	
		御嵩町	SX15	古墳時代前期	不明	4. 2	不明	0.7~4.8	0.3~0.4	
101		御嵩町	SX14	不明	不明	推定5.0	推定5.0	0.3~0.6	0.1~0.2	
102	矢道長塚古墳	大垣市	SX01	不明	不明	不明	不明	不明	不明	土器片少量
_		御嵩町	SX10	5世紀末	8	13. 0	13. 0	2.4~7.5	0.2~0.5	高坏、壺、甕
104	岩田東A遺跡		SZ1	弥生時代後期初頭	5 か	9.6	推定9.6	2. 2	0. 5	近江系甕・高坏、赤彩壺、粗製刃器
_	岩田東A遺跡		SZ2	弥生時代中期後葉	4カ	推定7.5	推定7.0	1. 5	0. 2	高坏、壺、甕
106	岩田東A遺跡	岐阜市	SZ701	弥生時代後期	不明	5. 6	推定5.6	1. 0	0. 9	
107	岩田東A遺跡	岐阜市	SZ702	弥生時代後期	不明	9. 0	推定9.0	1.8	0.8	
_	岩田東A遺跡		SZ703	弥生時代後期	不明	5.0以上	5.0以上	1.8	0.8	
_	岩田東A遺跡		SZ704	弥生時代後期	不明	不明	不明	1. 4	0. 7	
	·凡例	A 1 10		= -1.136/M	, 74	1.24	1 24	-, -		

形状凡例

 1 四隅明瞭な陸橋部:正方形
 3 全周型正方形墓
 5 一隅切断型
 7 一辺の中央部に陸橋部をもつ

 2 四隅明瞭な陸橋部:長方形
 4 L字型
 6 コ字型
 8 円形

※形状の分類は赤塚次郎2005「東海地方の方形周溝墓と前方後方墳」『季刊考古学第92号』による

※長軸・短軸は墳丘規模を計測

※前方後方形は後方部のみ墳丘規模を計測

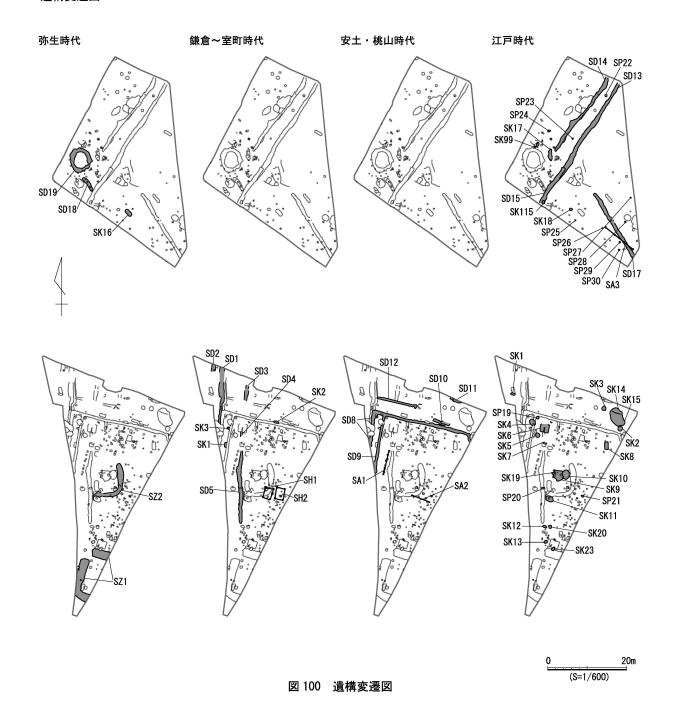
3 中世から近世の遺構の変遷と出土遺物

(1) 遺構の変遷

中世から近世に属する主な遺構は、図100のとおりである。

中世の遺構は、大きく鎌倉~室町時代と安土・桃山時代の2時期あると考える。鎌倉~室町時代の主な遺構は掘立柱建物跡SH1・2、溝跡SD1~7である。安土・桃山時代の主な遺構は、溝跡SD8~12、柵跡SA1・2である。南調査区のほぼ同じ位置で中世に区画溝を作り替えている。SD8・9は布掘の溝でいくつもの柱を一度に立てるために溝状に掘ったもので、横板や網代などをかけ、

遺構変遷図



塀や垣根を作り居住地の区画施設としたと考えられる。溝の底部に柱痕跡がないのは掘り直しがあったためと考える。この溝は調査区の南西方向に続くようであるが、近代の掘削で段丘崖の端が削られている。中世の時期の段丘面は更に南西方向に広がっていたものと思われる。区画溝内から確認できた掘立柱建物跡は小規模で2棟のみである。柱痕のあるピットが他にも検出されているが、建物跡を探し出すことはできなかった。明確な建物跡は確認できなかったものの、中世の青磁・白磁は区画溝の内側から、四耳壺や天目台も南調査区から出土している。安土・桃山時代の陶磁器が南調査区の区画溝周辺に分布が多く見られる。これらの遺物の出土分布状況(図 95)と遺構分布(図 100)より、鎌倉〜室町時代には南北方向の区画溝のみであったのを、安土・桃山時代には更に 25m四方のやや小さい区画に変わったようである。区画は小さくなっているが、SD9の中からは土師器皿が区画の中からは大窯の灯明皿が出土している。SD9出土の土師器皿には大きいものと小さいものがある。大きいものの口縁部にはタール状のものが付着し、灯明皿として使われていたようである。小さいものは肘作りのものと、撫で上げのものがある。SD9には近世の遺物の混入もあるが、山茶碗の一番新しい時期のものまで出土している。

近世前期の遺物は南調査区北側に多く出土し、後期では全調査区に分布するが、特に南調査区北側から多く出土している。遺構は南調査区からは土坑、北調査区からは溝跡を検出している。SK17・18は江戸時代末のごみため穴のようなものと思われる。その穴には江戸時代末の常滑の甕が埋められており、甕内の土を出した際にはかなり強い臭いがしている。北調査区からは「タマリ」の墨書がある片口鉢(248)が出土しており、埋甕と合わせて考えると、この地でタマリの醸造を行っていた可能性が高い。南調査区北からは常滑の移動式竈・火鉢・焜炉、焙烙鍋、擂鉢、練鉢など残りのよい遺物が多く出土しており、これらも醸造作業に使用していた可能性がある。擂鉢・練鉢・片口鉢などは明治時代のものも出土し、更に明治時代の徳利の底部に炭化物が付着したものがあり(293)、徳利にタマリを入れていた可能性もある。タマリの醸造を江戸時代末〜明治時代の時期にこの地で行っていたと思われる。南調査区北側には、明治時代以降のものと思われる井戸跡もある。安土・桃山時代の区画溝よりも北側に江戸時代の居住区域が広がるようである。おそらく江戸時代末もしくは明治時代に北調査区と南調査区の間の現在とほぼ同位置に東西方向の道ができ、その道沿いに住んだためと思われる。

(2) 出土遺物の分析

図 101・102 のグラフは、表 33~39 の破片数量表をもとに器種、時期、産地などを集約して作成した。なお、表 33~39 は藤澤良祐氏に鑑定していただき、それをまとめたものである。

まず、時期別の出土量について分析する。白瓷系陶器の皿、碗の破片数の比率は、およそ1:3である。碗は、第5型式まで尾張型山茶碗が少量あり、第6型式以降は東濃型山茶碗が多くなる。片口鉢は出土していない。白瓷系陶器全体の出土量は、第5・6・11型式に少量みられ、第8~9型式併行期(明和1号窯式~大畑大洞4号窯式)にかけて増えている(表35)。

瀬戸美濃製品の碗類の出土量は、登窯第8と10小期にピークがあり、それに対して皿類の出土量は登窯第3と9小期にピークがある。擂鉢は登窯第8と11小期にピークがある。瀬戸美濃製品の碗類、皿類、擂鉢のピークは時期により異なる(図101)。

表33 中近世陶磁器集計表

白瓷系陶器	(東濃産)	:集計表

分類	数量	谷迫 間	窯洞	白土 原	明和	大畑 大洞	大谷 洞	大洞 東	脇之 島	合計
碗	確定	1.0	5.0	1.0	10.0	9.0			5.0	31.0
碗	按分				0.5	0.5				1.0
碗	合計	1.0	5. 0	1.0	10.5	9.5	0.0	0.0	5. 0	32. 0
Ш	確定			2.0	3.0	1.0				6.0
Ш	按分									
Ш	合計	0.0	0.0	2.0	3. 0	1.0	0.0	0.0	0.0	6.0
合	計	1.0	5.0	3.0	13.5	10.5	0.0	0.0	5.0	38. 0

白瓷系陶器(尾張産):集計表

分類	数量	第3 型式	第 4 型式	第 5 型式	第 6 型式	第 7 型式	第 8 型式	第 9 型式	第10 型式	合計
碗	確定		2.0	2.0						4.0
碗	按分									0.0
碗	合計	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0
Ш	確定									0.0
Ш	合計	0.0	4.0	4. 0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8. 0
合	計	0.0	6.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0

瀬戸美濃:集計表

149(1 2	~ mx ·	木口1																				
分類	数量		古	瀬戸後	題			大	窯							登領	蕉					合計
刀规		I	II	Ш	IV古	IV新	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
碗類	確定				2.0													133. 0	5.0	131.0	2.0	273.0
碗類	按分																	39. 5	1.5	15.8	0.2	57.0
碗類	合計	0.0	0.0	0.0	2. 0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	172. 5	6. 5	146.8	2. 2	330. 0
皿類	確定			1.0	3.0					1.0	2.0		4.0	1.0			1.0	5.0	19.0		4. 0	41.0
皿類	按分												8.0	2.0				1.1	4. 2		0.6	15.9
皿類	合計	0.0	0.0	1.0	3. 0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	2.0	0.0	12.0	3.0	0.0	0.0	1.0	6. 1	23. 2	0.0	4.6	56.9
鉢・盤	確定	1.0				2.0				1.0								4.0		10.0	71.0	89.0
鉢・盤	按分																			2. 2	15. 4	17.7
鉢・盤	合計	1.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	12. 2	86. 4	106.7
擂鉢	確定				1.0		1.0			1.0								33. 0			88.0	124.0
擂鉢	按分																					0.0
擂鉢	合計	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33. 0	0.0	0.0	88. 0	124.0
壺・瓶																			12.0	35.0	6.0	53.0
壺・瓶	按分																			32. 5	5.6	38.0
壺・瓶	合計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0	67.5	11.6	91.0
灯火具	確定								3. 0											2.0	11.0	16.0
灯火具																				2.0	11.0	13.0
灯火具	_	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3. 0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	22. 0	29.0
神仏具																	10.0		2.0			12.0
神仏具																						0.0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	2.0	0.0	0.0	12.0
合	計	1.0	0.0	1.0	6.0	2.0	1.0	0.0	3.0	3.0	2.0	0.0	12.0	3.0	0.0	0.0	11.0	215.7	43. 7	230. 5	214.8	749.6

表34 近世陶磁器産地別点数

種別	産地		Š	育1段[皆			第 2	段階				第3段階	2		合計
但力力	连地	1	2	3	4	小計	5	6	7	小計	8	9	10	11	小計	, E E I
	瀬戸					0.0				0.0	59.0	37. 4	123.0	179.0	398. 4	398. 4
陶器	美濃	2.0		12.0	3. 0	17.0			11.0	11.0	178.2	5.6	46.0	14.3	244. 1	272.1
	瀬戸美濃					0.0				0.0					0.0	0.0
磁器	瀬戸					0.0				0.0	2.0	1.0	5.0		8.0	8.0
ሳስ ልልሃ	瀬戸美濃					0.0				0.0				3.0	3.0	3. 0

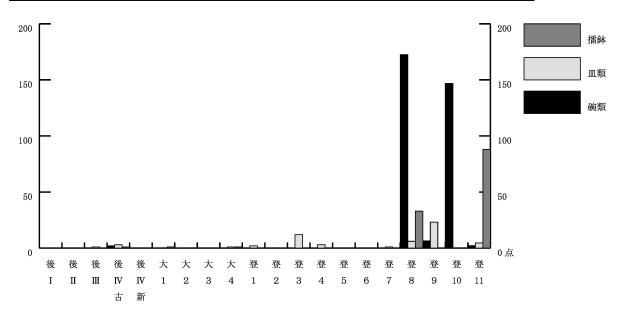


図 101 瀬戸美濃器種別グラフ

表35 出土遺物破片数量表(灰釉陶器・白姿系陶器)

1X 00 L	<u> </u>	<u> 3 790 P</u>	<u> </u>	1 3	<u> </u>	嵳	<u>1X</u>		<u>. //</u>	<u>√11</u>	H hh	<u>4</u> 1	<u> </u>		Ц,	<u> 5</u>	<u> </u>	hmì	<u> 1111</u>	<u>'/</u>				
			D	阿納	陶	器			白	瓷系	系隋	器						美测	祭					
中分類	nn	mere tut.	K	0	Н	百	3	4	5	6	7	8	9	1	谷	寒	白	明	大	大	大	脇	小	合
中分類	器種	産地	9	5	7	代								0	迫	洞	土	和	畑		洞	之	計	計
			0	3	2	寺									間		原		大洞	洞	東	島		
	深碗	美濃	г	_		1									г				41BI				15	
灰釉陶器	碗	尾張		3	4	7																	15	21
八种阿吞	Ш	尾張			4																		4	21
	瓶・鉢				1	1																	2	
	碗	尾張						2	2														4	
白瓷系陶器	碗	東濃													1	5	1	10	9			5	31	42
	碗	東濃																	L				1	**
	Ш	東濃															2	3	1				6	

※数値は接合後の破片数を示す。

表37 古瀬戸前期~大窯第4 段階食器組成

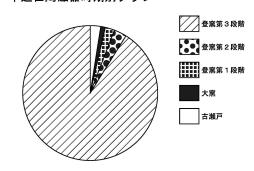
17/11/20/14/14/14	•	
種別	数量	割合(%)
白瓷系陶器	725.0	70.5
土師器皿	260.0	25. 3
中国陶磁器	4.0	0.4
瀬戸美濃陶器	39. 0	3.8
合計	1028.0	100.0

表36 出土遺物破片数量表(古瀬戸・大室)

表30	出工退														、羔	₹/								
		抽	瀬戸				瀬戸				古瀬								窯				小	合
中分類	器種	Ι	П	Ш	IV	Ι	П	Ш	IV	Ι	П	Ш		IV 新	1 前	1 後	2 前	2 後	3 前	3 後	4 前	4 後	計	計
天目茶碗	天目茶碗 天目台												1										2	2
碗類	碗													1									1	1
	縁釉小皿											1	2										3	
皿類	腰折皿												1										1	5
	志野皿																					1	1	
	折縁深皿									1													1	
	卸目付大皿													2									2	
盤類													1										1	6
1	盤類												1										1	
										Щ		1			Ш								1	
的 III.	卸皿									Ш			1	Ш									1	2
		L		_	Ш	╙		_		╙		Ш	_	1	Ш			_	_				1	_
Jes Al.	Jes A I.	L			Ш					L	_		1		1					L	Ŀ	Щ	١. ا	١.
擂鉢	擂鉢	L		_		L				Н	_		_		Ш	_		_	_		1		4	4
	LA- Mr-				Н	_	_			H					Н						1		_	
壺瓶類	梅瓶 壺					-	1							2								Щ	2	6
组织规则	四耳壺				L 1					_		2											3	0
	四中重	Н		_	1	⊢		_	Н	Н		_		П	Н	_	Н	_	۰	3			3	
灯明皿	灯明皿				Н	_				Н	_				Н		 2		_				2	5
神仏具	花瓶か				П	Т			П	Т	Т	Т	1	_	П							П	1	1
	鉢											1											1	2
鉢類	志野鉢																					1	1	2
その他	柄付片口						1																1	1

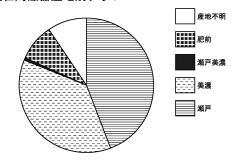
《数値は接合後の破片数を示す。

中近世陶磁器時期別グラフ



近世陶磁器時	期別割
種別	集計
古瀬戸	22
大窯	10
登窯第1段階	19
登窯第2段階	26
登窯第3段階	777

近世陶磁器産地別グラフ



加區剛隊		四几年	
種別	集計	%	
瀬戸	498	44. 2	
美濃	417	37	

江 臣 阿城	砂圧リ	ᄪᄱᆓ			
種別	集計	%	種別	集計	%
瀬戸	498	44. 2	瀬戸	498	30.8
美濃	417	37	美濃	417	25. 8
瀬戸美濃	5	0.4	瀬戸美濃	5	0. :
肥前	100	8. 9	肥前	100	6. 2
産地不明	106	9.4	常滑	360	22. 2
総計	1020	100	瓦質陶器	47	2. 9
			土師器鍋	85	5.
			産地不明	106	6. 0
			総計	1512	93.

登窯器種別グラフ

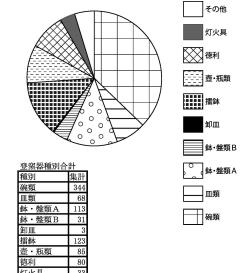


図 102 中近世陶磁器時期・産地・器種別グラフ

123 123

80 80

32 33

	表38	出土遺物		人里	[衣	(豆	羔	7) 登窯	1					. ار		表39		出土遺物破片			衣				_			
新田	分類	器種	産地	1	1 2	3	4	5		_	8	9	10	11	計	合計	分類	器種	産地	1	2	3	4		_	8	9	10	11
		Bit	美濃	Ĺ	Ī								Ī		_			火鉢	瀬戸	Ĺ					Ė				
展示		198									-	2			94			善物									1	\Box	
				L			_							2														9	
接触		l. mla		╙	_	<u> </u>	╄		_		28		2				陶器卸皿	卸皿		Ш						_	3	\dashv	
		儿伽		┡	_	-	_		3		Ι.	_			68		陶器	Jeff A.L.								33		_	
大型				⊢					-		1	ь						擂弊		H.								1	_
解析		H田(名本・女* なな)		Ͱ		Г	Т	1	, 			1			1	 	—	裕		H	L							4	_
機				⊢			+									1 I	1											_	_
機				H												†	1											_	5
映画				H									63			1	1	土瓶											
機能 機能 機能 地域 地域 地域 地域 地域 地域 地域 地		染付碗	瀬戸	ı								1			00		购皿士										11	34	3
上記中級 長龍 1 1 1 1 1 1 1 1 1													10		02				瀬戸							- :	2		
放送 数月 1 1 1 1 1 1 1 1 1														2		l l	/IDAXA	甕										12	3
		上絵付碗					_				1				1		1							L			1	\Box	
横戸 1 1 5 7 7 7 7 7 7 7 7 7		広東茶碗		┡		-	-					1			14		1							1				\vdash	_
株理	陶器			⊢		-	-									200	1	半胴											_
本稿 大き 大き 大き 大き 大き 大き 大き 大	碗類	茶碗		⊢		-	\vdash				-	1	b			329	—	徳利		Н	_							_	_
接換 1 1 1 1 1 1 1 1 1				⊢			\vdash				_	ı	2		16											1	3	1	4
接触 接触 1 1 1 1 1 1 1 1 1				┢		\vdash	+		1		-		-		10			PENT O								_		- 65	_
接換 大き 12 2 17 18 18 18 18 18 18 18				H		\vdash	T		Ė			4								H								_	
下の		湯呑(鉄絵)		T			T				_		2			1		灯明皿		Т			Т				1	Ť	_
				Г							_	1			17													2	_
解析場合 (株金) 美禮			瀬戸美濃						1						17				美濃										8
株の砂・ 美濃 1 1 1 1 1 1 1 1 1			美濃														N A								6				
製師				┖							-		21		24		1											_	ι
掛分級を 美濃 1 2 4 28 28 28 3 4 3 1 3 4 3 1 3 4 3 4 3 4 4 3 4 4				┖			_				-	2						秉燭					_					1	
所に																↓	1										1	\dashv	_
小部 美濃 1 1 20 20 3 3 3 4 3 1 3 3 4 3 1 3 3 3 3 3 3 3 3		小碗		⊢			-					2			2		1	香炉										\dashv	_
大字 美震				Ͱ			-				20		4		28		-						_		5			_	-
小中 秋戸 1 1 1 1 2 3 3 4 3 3 4 3 3 4 3 3				⊢			+				_	4			20			倫形 禾后							6				-
小中 瀬戸				┢		1	1									1 1	1			H					-			1	\dashv
瀬戸 1				T		Ť						2			3														
横河 1 1 1 1 1 1 1 1 1		1		Г								10		1				仏餉具										4	
大き 大き 大き 大き 大き 大き 大き 大き			瀬戸									1							瀬戸								1		
養養			瀬戸										4	Ł					瀬戸									3	
瀬戸美濃											4	3			30														
下子表 1 1 1 2 2 3 3 3 3 4 4 4 4 4 4				_										_														1	
声野皿 美濃 1 1 1 1 1 1 1 1 1	陶工器類			⊢					Ļ				1	,			1										_		_
数絵皿 美濃 1 1 1 1 1 2 1 1 2 1 1				⊢		T 4	_	1	1						_	- I	1												
大				1	\vdash	4	\vdash						\dashv	_]	1			Н						2		1	_
下の皿 美濃 10 11 10 10 10 10 10 1				<u> </u>		\vdash	1						\dashv							Н	_		-			_		7	_
大田		反り皿 摺絵皿 染付皿		┢	\vdash								\dashv					碗		H						2			_
類然				T		Т				1						1 [TIL 46*	\$1.70ki		Т						Ť			_
大田 瀬戸 1 1 1 1 1 1 1 1 1			美濃									1			3	00) JL 16/12	瀬戸美濃					1					П
操行 瀬戸 1 1 梅文皿 瀬戸 1 1 上絵付皿 美濃 1 1 蘇和皿 美濃 1 1 東子皿 瀬戸 1 1 小皿 瀬戸美濃 1 1 中皿 美濃 1 1 大四 瀬戸 5 1 藤路 1 67 84 竹口 瀬戸 1 67 84 竹口 瀬戸 1 67 84 竹二 瀬戸 1 67 84 竹二 瀬戸 1 67 84 竹二 瀬戸 1 67 84 女子鉢 瀬戸 4 4 4 町鉢 美濃 2 2 2 手水鉢 瀬戸 4 4 4 町鉢 美濃 2 2 2 手水鉢 瀬戸 4 4 4 町鉢 美濃 2 2 2 手水鉢 瀬戸 4 4 4 町 4 4 4 4 町 2 2 2 2 手木鉢 瀬戸			美濃						1								1913/94	染付碗	瀬戸									4	
操行 瀬戸 1 1 1 1 1 1 1 1 1				┖								5					1	広東茶碗									1		
梅文皿 瀬戸 1 1 1 上絵付皿 美濃 1 1 1 藤和皿 美濃 1 1 1 東子皿 瀬戸 1 1 1 小皿 瀬戸美濃 1 1 1 中皿 美濃 3 4 女 瀬戸 1 10 大田 瀬戸 1 1 瀬戸 1 1 67 瀬戸 1 16 84 野子 瀬戸 4 4 女子鉢 瀬戸 4 4 野女 2 2 2 手木鉢 瀬戸 2 2 五 2 2 2 五 2 2 2				╙					Ļ				2	?	8		-07.00		美濃	Ш				Ļ				1	_
上絵付皿 美濃 1 1 1 緑和皿 美濃 1 1 1 東子皿 瀬戸 1 1 1 小皿 英連 1 1 1 中皿 美濃 3 4 本瀬戸美濃 1 1 1 本瀬戸美濃 1 1 1 大油 瀬戸美濃 1 1 本瀬戸 1 1 2 大油 瀬戸 1 67 藤子 瀬戸 1 67 藤子 瀬戸 4 4 東子 瀬戸 4 4 華子 瀬戸 2 2 手木 瀬戸 2 2 手木 瀬戸 2 2															_			_											
縁和皿 美濃 1 1 1 1 1 1 1 1 1				⊢	\vdash	┢	╀	\vdash			1	1	\dashv			∤ 	皿類			H				_			-		_
菓子皿 小皿 地戸美濃 中皿 美濃 大戸 大口 瀬戸 大口 瀬戸 大口 瀬戸 大口 瀬戸 大口 瀬戸 大口 瀬戸 瀬戸 瀬戸 大口 瀬戸 瀬戸 瀬戸 瀬戸 瀬戸 瀬戸 瀬戸 瀬戸 瀬戸 瀬戸 瀬戸 瀬戸 瀬戸				1			-	-			1					- 磁器 - 磁器 - その他	磁器 2							1				$\overline{}$	2
小皿 瀬戸美濃 1 1 1				Ľ		-								1						H								1	
中皿 美濃 1 1 4 接濃 1 1 1 4 接濃 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				┢			+						1		_		その他						_	1					-
大口 美濃 1 1 2 2 2 2 4 4 4 4 4 4				H									T	1															\neg
時期 美濃 1 2 瀬戸 10 10 瀬戸 1 17 美濃 1 67 瀬戸 16 84 蘇子/蘇 瀬戸 4 4 近針 美濃 2 2 手水鉢 瀬戸 2 2 手木鉢 瀬戸 2 2	陶器 鉢・ 盤類 A	T.T.		T								;	3		4				1.0.0										_
「		片口 練鉢 菓子鉢 餌鉢	瀬戸										1	ļ	9														
横戸									1						4] [
瀬戸 1														10															
胸器 瀬戸 1 1 蘇本 瀬戸 1 67 84 菓子鉢 瀬戸 16 84 原子鉢 瀬戸 4 4 餌鉢 美濃 2 2 手水鉢 瀬戸 2 2				$ldsymbol{ldsymbol{ldsymbol{eta}}}$	_							ő			17														
蘇・ 練鉢 瀬戸 瀬戸 1 67 16 84 菓子鉢 瀬戸 町鉢 2 2 2 手水鉢 瀬戸 2 2 2				—	1	1	_	1			L.		1																
 整類A 練鉢 瀬戸 ガラ ガラ ガラ ガラ カラ カー <l< td=""><td></td><td>⊢</td><td>1</td><td>1</td><td>-</td><td>-</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>\vdash</td><td></td><td></td><td rowspan="6"></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></l<>				⊢	1	1	-	-					\vdash																
菓子鉢 瀬戸 4 4 餌鉢 美濃 2 2 手水鉢 瀬戸 2 2				⊢	1	-	\vdash	-		-	1		11		84														
餌鉢 美濃 2 2 手水鉢 瀬戸 2 2				⊢	1	1	+	-		-			1		4														
手水鉢 瀬戸 2 2				\vdash	1		+	+			9	H	\vdash	4															
				\vdash	+		+	\vdash			-		9	2															
				H			_	1	2	_																			

144 第4章 総括

古瀬戸製品は、碗・皿類が後IV期(古)の時期に多いが、壺瓶類や盤がそれ以前の時期から供給されている。灯明皿は大窯からみられる(表 36)。当遺跡では、白瓷系陶器片口鉢が出土せず、古瀬戸擂鉢が少量出土している。

次に構成比について分析する。今回出土した土師器皿は、およそ古瀬戸後期から大窯第4段階までの遺物と共伴している。そのため、土師器皿が使用されていた時期(およそ中世後期)の食器組成を算出するために、その時期の出土遺物数を計量し、比率を算出した(表 37)。その結果、土師器皿は全体の 25.3%で、白瓷系陶器 70.5%の次に多く、以下、瀬戸美濃陶器(古瀬戸・大窯・登窯第1段階の遺物数の合計)は 3.8%、中国陶磁器は 0.4%という比率であった。また、瀬戸美濃製品の皿類、碗類、擂鉢などの構成比では、古瀬戸段階の方が碗・皿・盤類の出土数がやや多く、大窯段階では碗・皿はほとんど出土せず擂鉢・灯明皿がやや多い。

登窯製品の出土量は、段階別にみると第8・10・11 段階がそれぞれ全体の約30%を占めていることがわかる。また、瀬戸と美濃の比率では、第1段階から第7段階では美濃産の比率が高いものの、第8~11段階においてはほぼ同じ比率となった。なお、登窯第1~11段階における産地別の組成は、瀬戸498破片(全体の44.2%、以下同様)、美濃417破片(37.0%)、瀬戸美濃5破片(0.4%)、肥前100破片(8.9%)、産地不明106破片(9.4%)、合計1126破片(100.0%、いずれも細片除く)であった(図102)。

常滑製品で時期は近世と思われるものが 360 点出土しており、特に移動式竈と思われるものが 141 破片と多く(口縁部残存率個体数 2.1)、他に方形焜炉 23 破片、円形焜炉 7 破片、焜炉 9 破片、火鉢 10 破片がある。

4 まとめ

今回の調査区では特に中世における段丘崖を意識した区画配置が注目できる。近世以降は一般集落であるが、中世後期では土師器皿など一般集落からはあまり出土しない陶磁器が多い。土師器皿は一般的に城館など、地域の権力者や有力者の居住地ほど出土量が多い傾向にある(井川 2006)。今回出土した土師器皿は、SD9から完形に復元できる個体が複数まとまって出土している。径が6cm前後の小さいサイズは祭祀に使用している可能性がある。径が9~10cmのものは灯明皿として使用している。これらは饗宴や儀式等に伴う一括廃棄と想定される。布掘の溝に区画された居住域などの存在も加味すると、当遺跡は一般集落とはやや異なる性格を有していたといえよう。

当調査区では、弥生時代には墓域、7世紀後葉~8世紀初頭と10~11世紀には集落域、中世後期には溝で区画された屋敷地、近世では集落域となり、時期によって遺跡の性格が違うことが明らかになった。特に隣接して掘った岩田西遺跡は低地、当調査区は高地にあり、当調査区で出土していない時期の遺構・遺物が、西に隣接する岩田西遺跡で確認されている。岩田西遺跡で出土している主な遺物は8世紀以降の須恵器、中世前期の陶磁器、江戸時代前期の陶磁器などである。当遺跡と岩田西遺跡のように隣接して違う地形を調査した例はあまりなく、更に高地と低地の遺跡が密接に関係しているようである。当遺跡と岩田西遺跡の関係の考察は、岩田西遺跡の報告を待つこととする。

<引用・参考文献>

愛知県埋蔵文化財センター2001『川原遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 91 集 愛知県埋蔵文化財センター2002『八王子遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 92 集

赤塚次郎 2002「総説 土器様式の偏差と古墳文化」『考古資料大観』第2巻 弥生・古墳時代土器Ⅱ

赤塚次郎 2002「濃尾平野における弥生時代後期の土器編年」『八王子遺跡』考察編

赤塚次郎 2005「東海地方の方形周溝墓と前方後方墳」『季刊考古学第 92 号』

井川祥子 2006「美濃中世後期土師器皿の分類と編年」『守護所と戦国城下町』高志書院

岩史誌編纂委員会 2007『岩郷土誌』

大垣市教育委員会 2008『荒尾南遺跡Ⅲ』大垣市文化財調査報告書第 18 集

岐阜市 1980『岐阜市史 通史編 原始・古代・中世』

岐阜市 1979『岐阜市史 史料編 考古・文化財』

岐阜市教育委員会 1987『寺田・日野1』

岐阜市教育委員会・岐阜市遺跡調査会 1995『寺田遺跡』

岐阜市教育委員会 1999『平成 9·10 年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』

岐阜市教育委員会 2000『城之内遺跡』

岐阜市教育委員会・財団法人岐阜市教育文化振興事業団 2004・2008 『平成 12・14・15、17・18・19 年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』

九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会 10 周年記念

財団法人愛知県埋蔵文化財センター1995『名古屋城三の丸遺跡(V)』

東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会 1996『鍋と甕そのデザイン』第4回東海考古学フォーラム 奈良文化財研究所 2008『奈良文化財研究所学報第 78 冊 近世瓦の研究』

藤澤良祐 1994「山茶碗研究の現状と課題」『三重県埋蔵文化財センター 研究紀要』第3号

藤澤良祐 2007「第1章 総論」『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 瀬戸系』

表 31・32 の参考文献

岩花秀明 1997「国府町の古墳時代」『飛騨の古墳時代』飛騨国府シンポジウム

糸貫町教育委員会・本巣町教育委員会 1999『船木山古墳群』

大垣市教育委員会 1992「東長田遺跡」『大垣市埋蔵文化財調査概要平成3年度』

大垣市教育委員会1994「東長田遺跡」『大垣市埋蔵文化財調査概要平成4年度』

大垣市教育委員会 1997「東長田遺跡」『大垣市埋蔵文化財調査概要平成7年度』

大垣市教育委員会 2000「荒尾南遺跡」『大垣市埋蔵文化財調査概要平成 10 年度』

大垣市教育委員会 2001「一本松遺跡試掘確認調査」『大垣市埋蔵文化財調査概要平成 11 年度』

大垣市教育委員会 2002「東町田遺跡」『大垣市埋蔵文化財調査概要平成 13 年度』

大垣市教育委員会 2003『荒尾南遺跡Ⅱ』大垣市埋蔵文化財調査報告第 13 集

大垣市教育委員会 2004『東町田遺跡』大垣市文化財調査報告書第 14 集

大垣市教育委員会 2004「矢道A遺跡・矢道長塚古墳」『大垣市埋蔵文化財調査概要平成 14 年度』

大垣市教育委員会 2006『矢道長塚古墳Ⅱ』大垣市文化財調査報告書第 16 集

大垣市教育委員会 2009『東町田遺跡Ⅱ』大垣市文化財調査報告書第 19 集

岐阜県2003『岐阜県史』考古資料

財団法人岐阜市教育文化振興事業団 2007『船木山古墳群』(財)岐阜市教育文化振興事業団報告書第 16 集

関市教育委員会 1994『新修関市史』考古・文化財編

財団法人岐阜県文化財保護センター1998『荒尾南遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書第 26 集 財団法人岐阜県文化財保護センター2002『後平茶臼古墳・後平遺跡』岐阜県文化財保護センター調査 報告書第 77 集

財団法人岐阜県文化財保護センター2003『金ヶ崎遺跡・青木横墓』岐阜県文化財保護センター調査報告書第 78 集

財団法人岐阜県文化財保護センター2003『深橋前遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書第 79 集 財団法人岐阜県教育文化財団 2006『大杉西遺跡』岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書 第 96 集

財団法人岐阜県教育文化財団 2006『西ヶ洞廃寺跡・中野山越遺跡・中野大洞平遺跡・大洞平 5 号古墳』 岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第 98 集

財団法人岐阜県教育文化財団 2007『中野大洞平遺跡Ⅱ』岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査 報告書第 107 集

財団法人岐阜県教育文化財団 2008『小洞遺跡・小洞西1号古墳』岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第 109 集

鈴木元 2002「美濃の弥生墓制」『美濃の考古学』第5号

多治見市教育委員会 1996『平成5・6・7年度市内遺跡発掘調査・確認調査・測量調査報告書』 多治見市教育委員会 2006『野中遺跡発掘調査報告書』第5次 多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書第 80号

中井正幸 1997「美濃の古墳文化」『飛騨の古墳時代』第4回飛騨国府シンポジウム

古川町教育委員会 1991『上町遺跡D地点発掘調査報告書』

美濃加茂市教育委員会 1995『為岡遺跡発掘調査報告書』

美濃市教育委員会 2005『古村遺跡』美濃市文化財調査報告第 25 号

写真図版



北調査区近景(東から)



南調査区近景(東から)

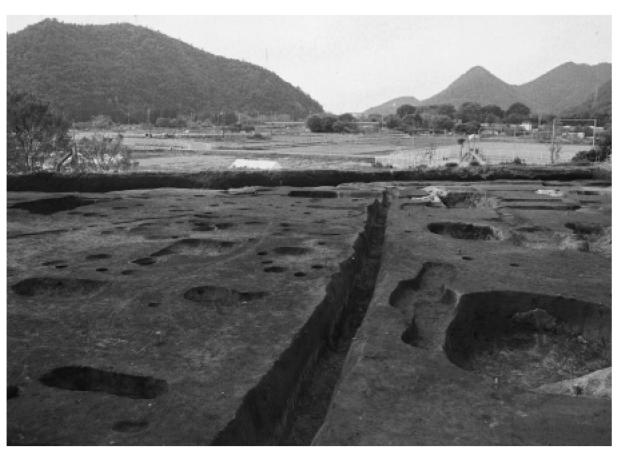
図版 2



SZ1完掘状況(北から)



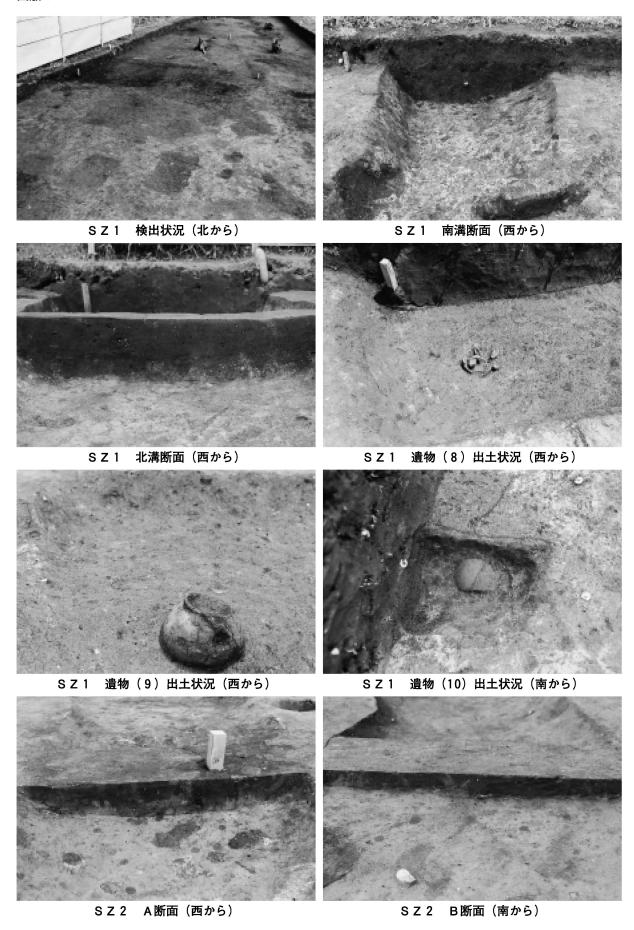
SZ2完掘状況(南から)

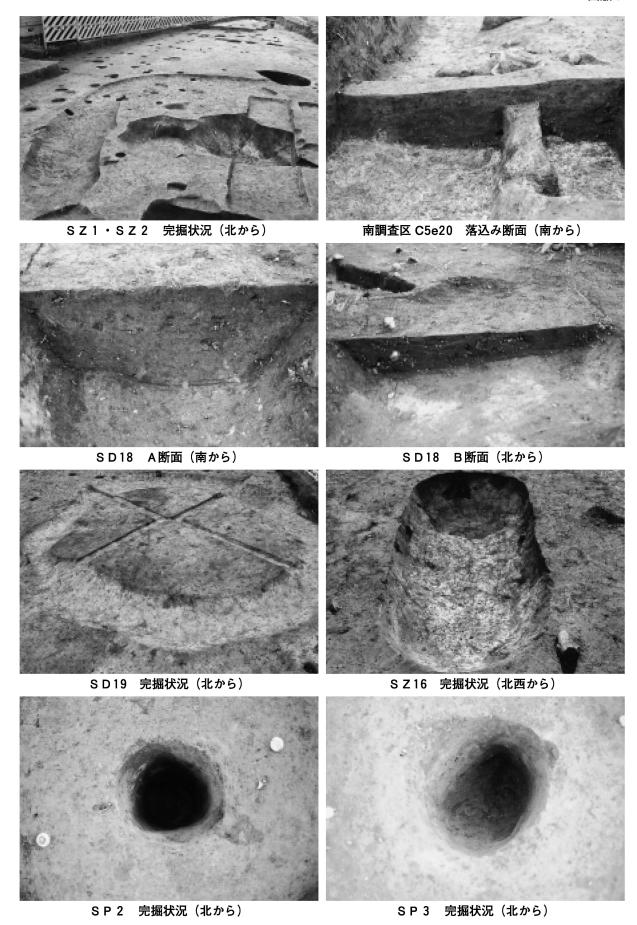


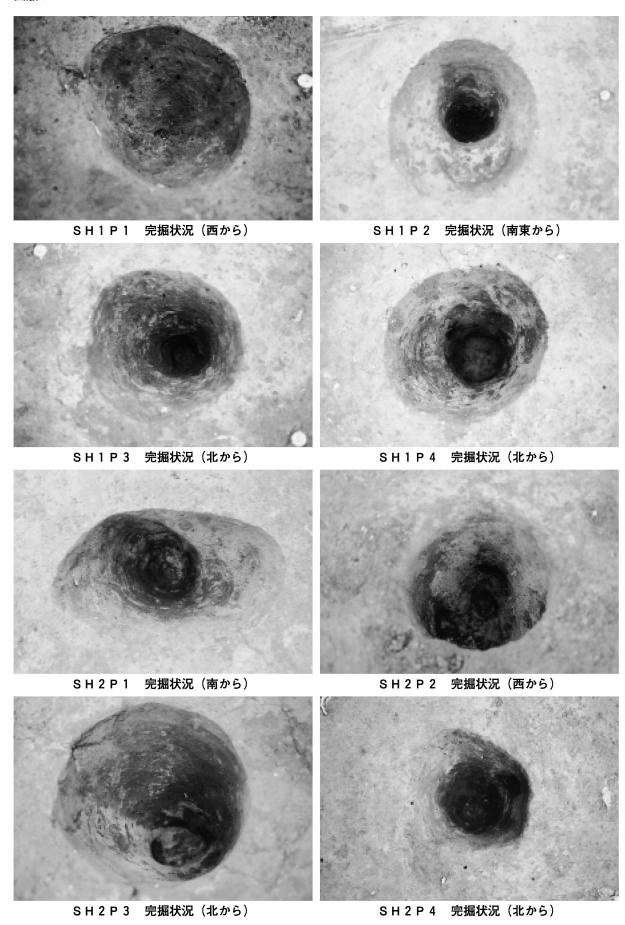
SD9完掘状況(東から)

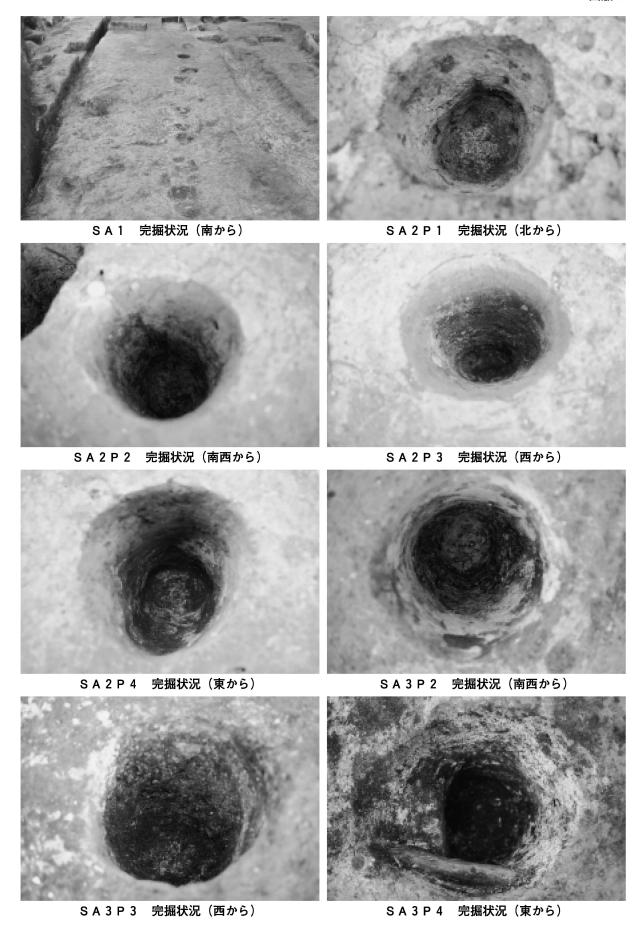


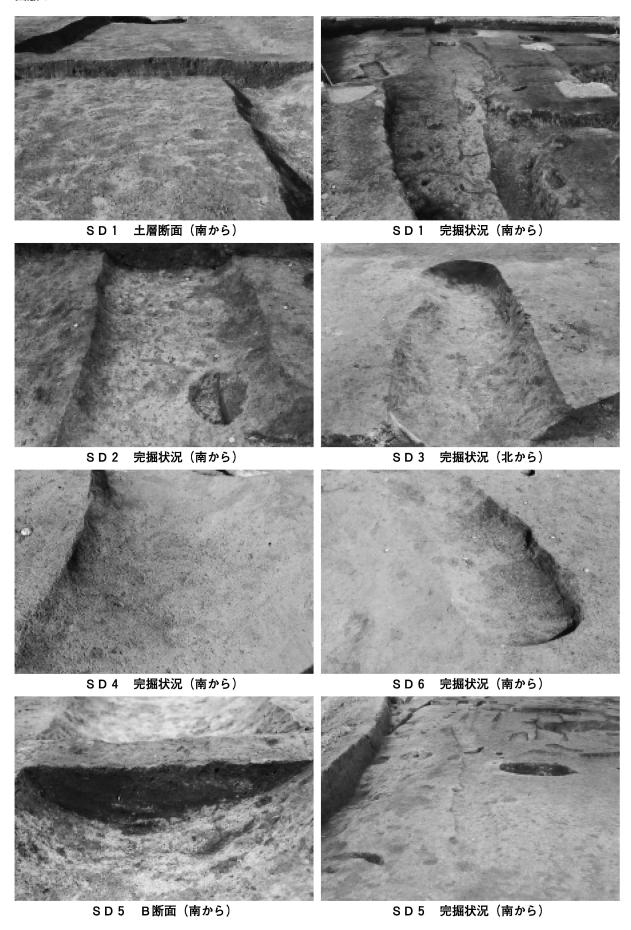
SD9完掘状況(北から)

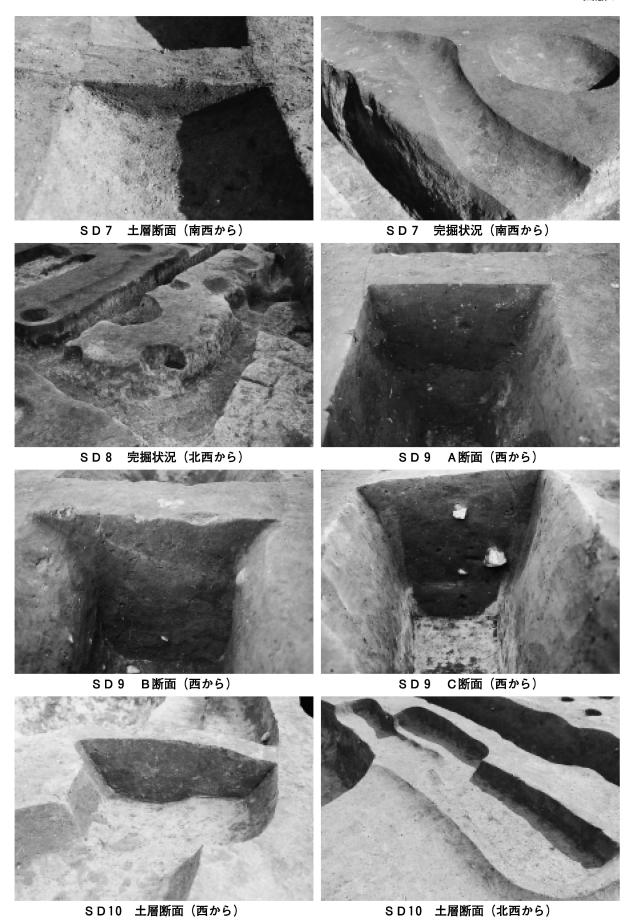


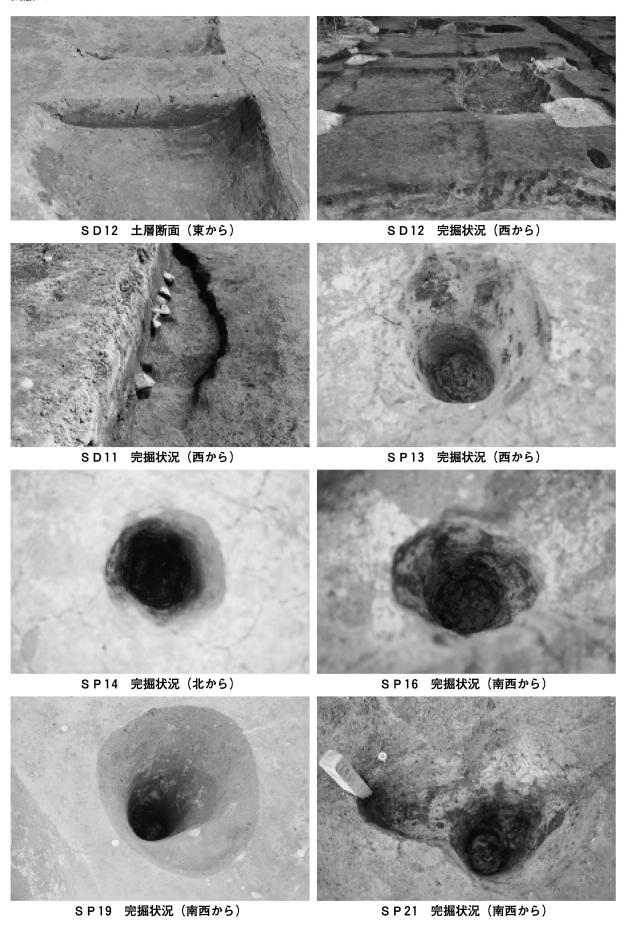


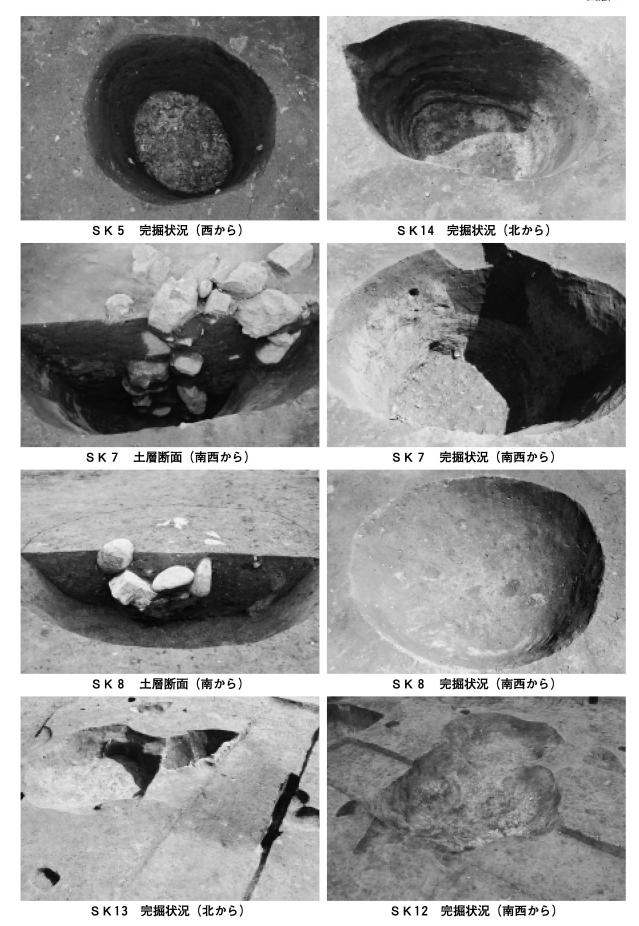


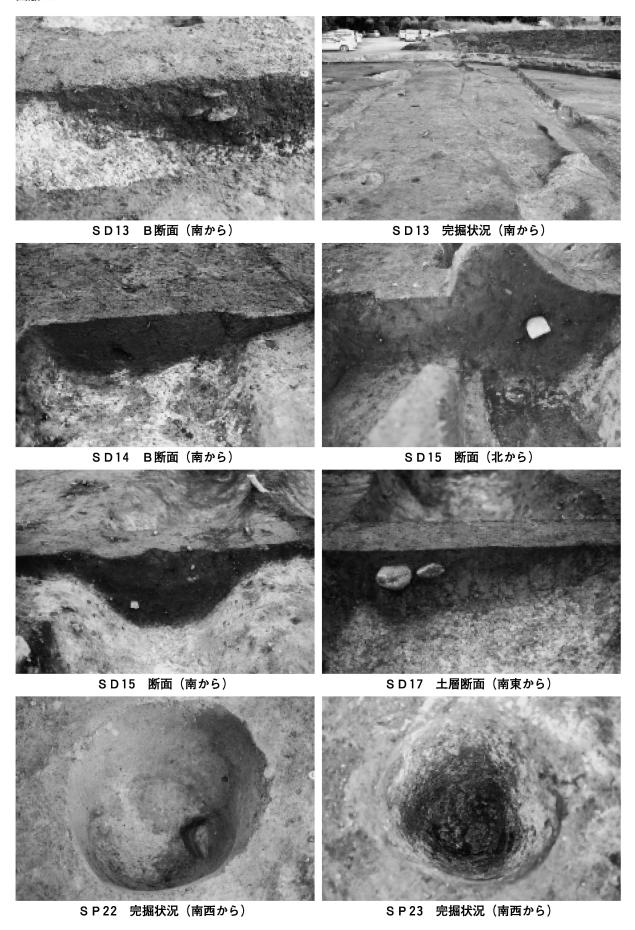


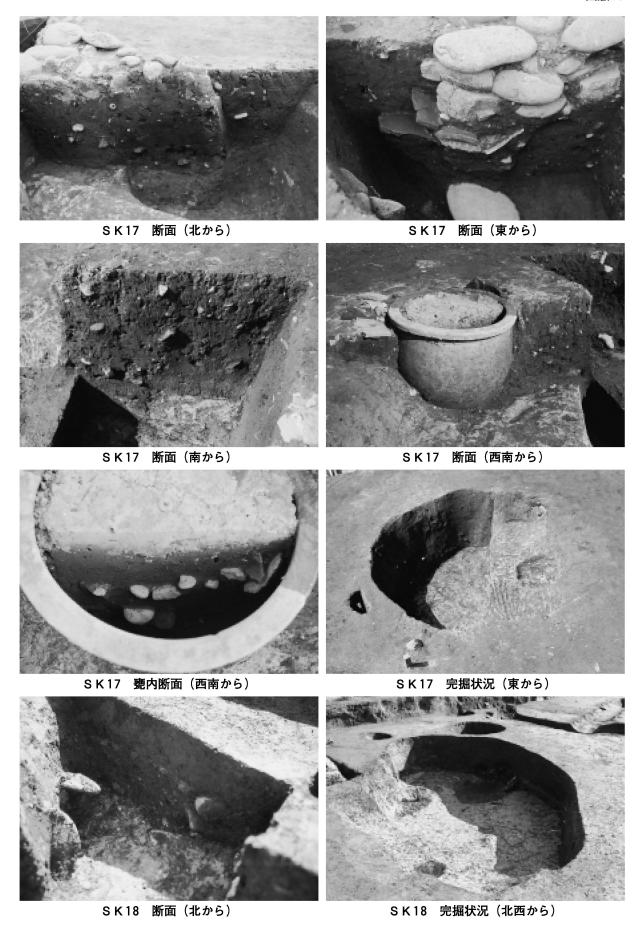




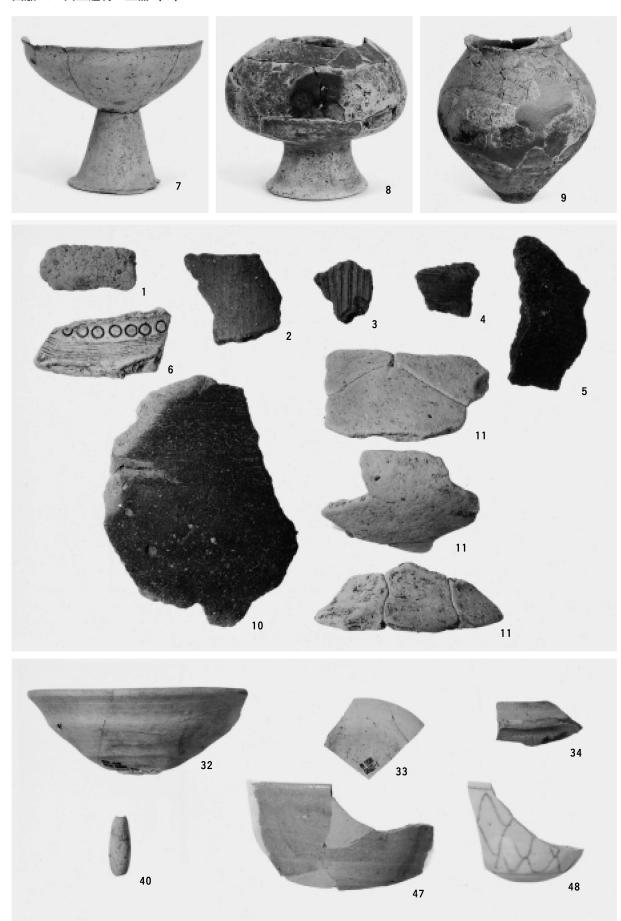


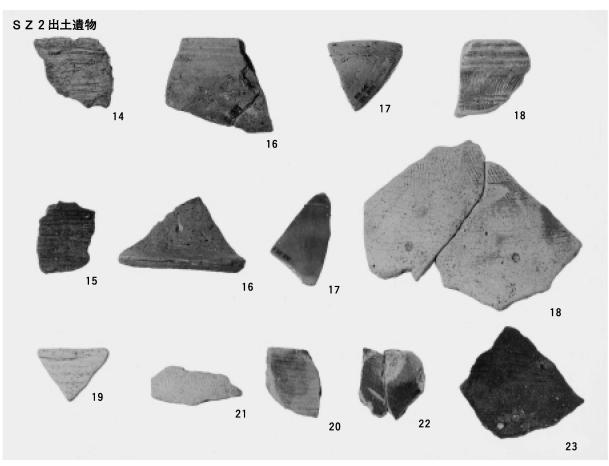


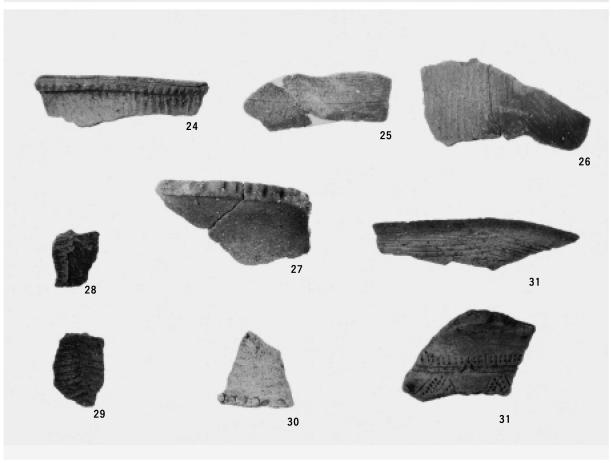




図版14 出土遺物・土器(1)

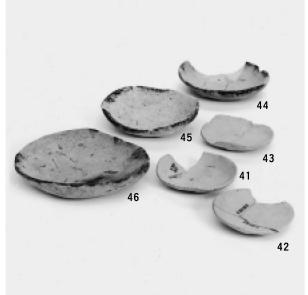


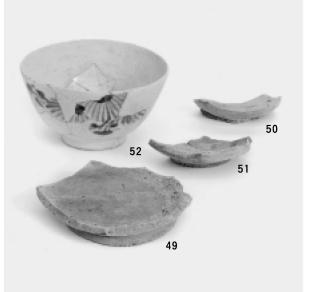


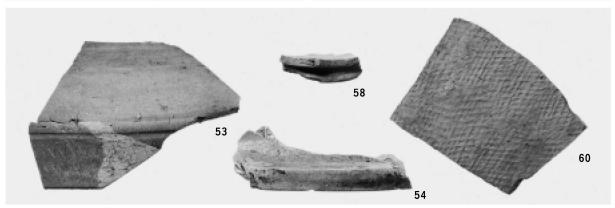


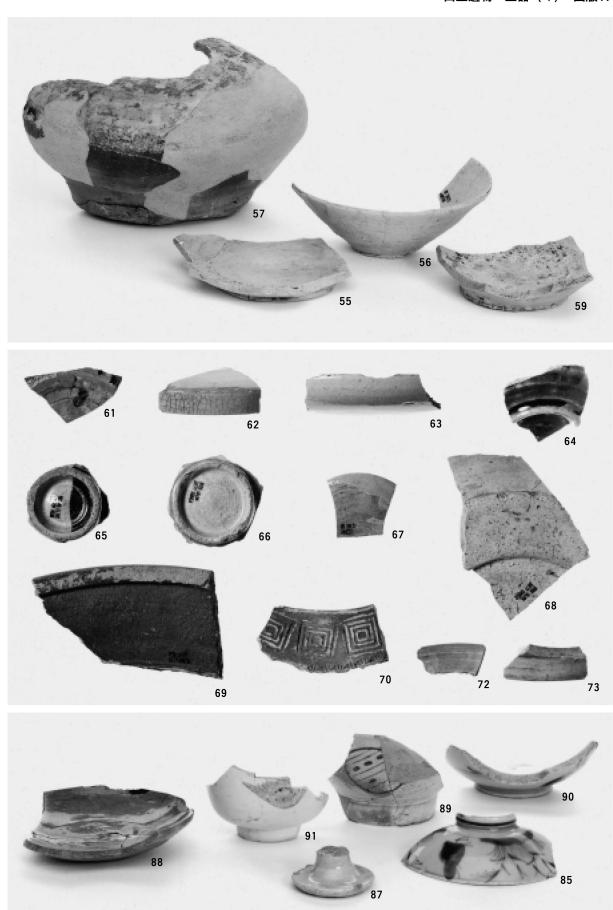
図版16 出土遺物・土器(3)



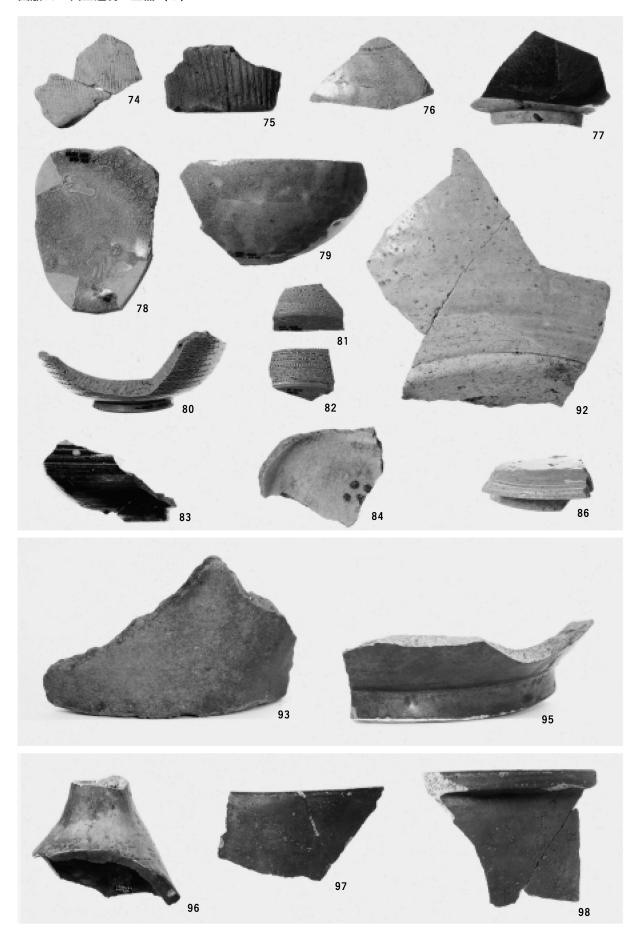


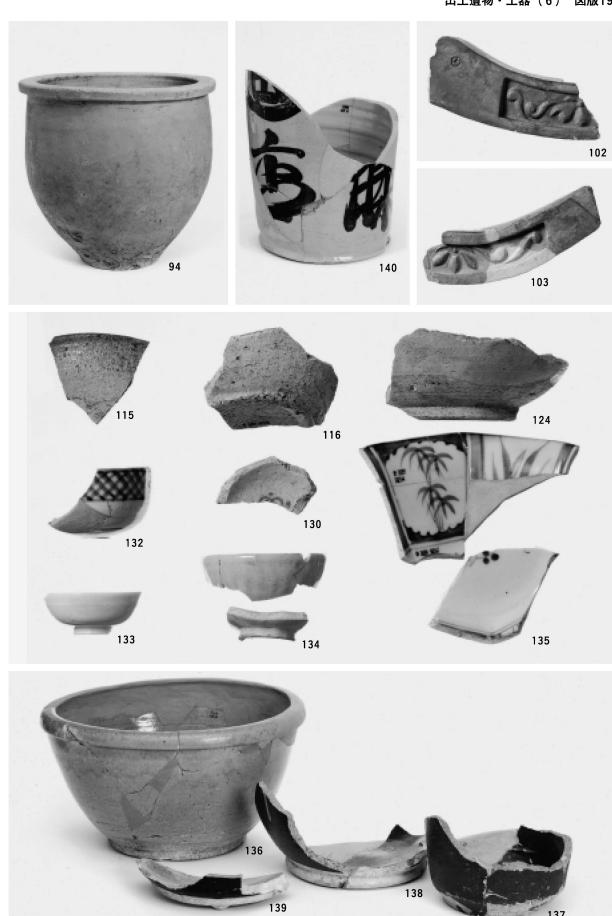






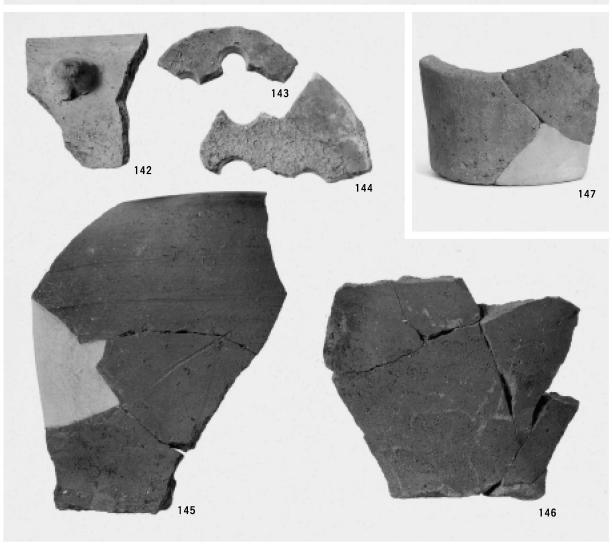
図版18 出土遺物・土器(5)

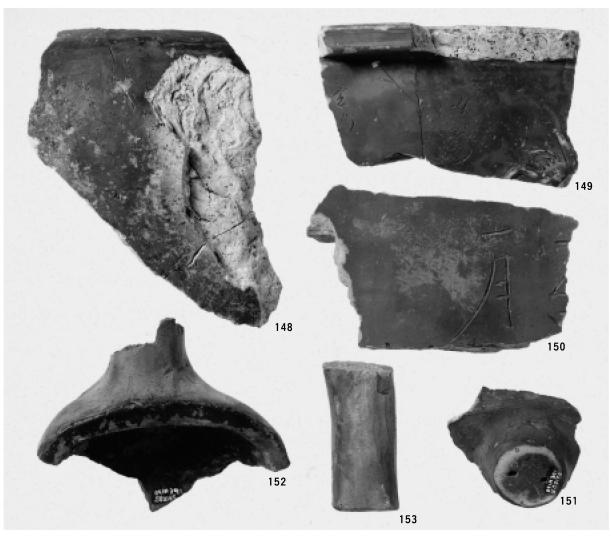


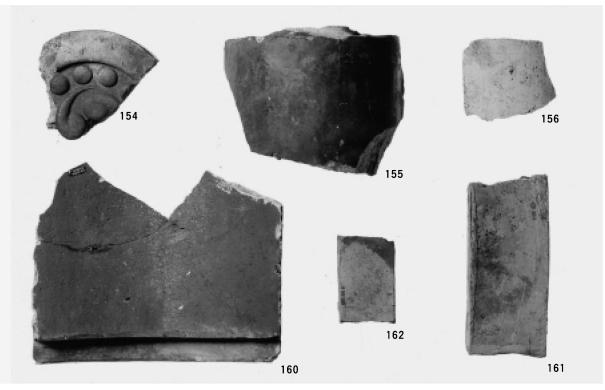


図版20 出土遺物・土器(7)





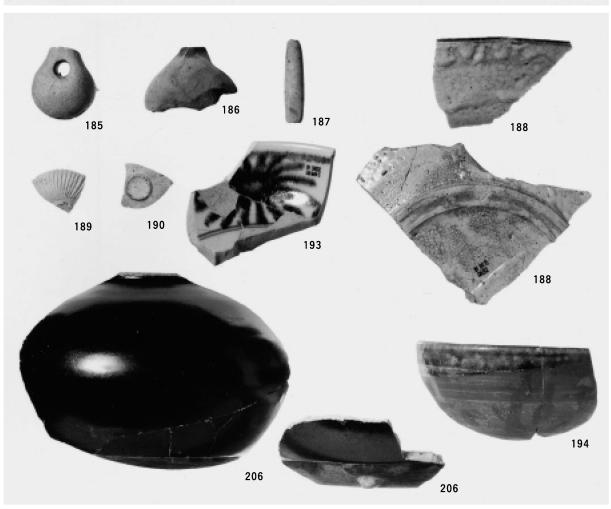




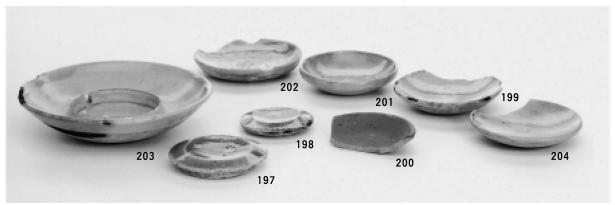
図版22 出土遺物・土器(9)



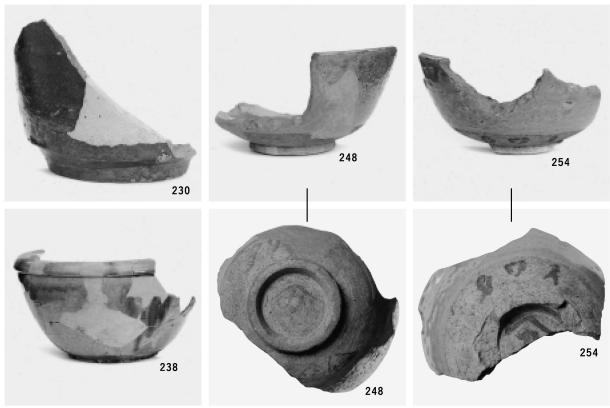




図版24 出土遺物・土器(11)

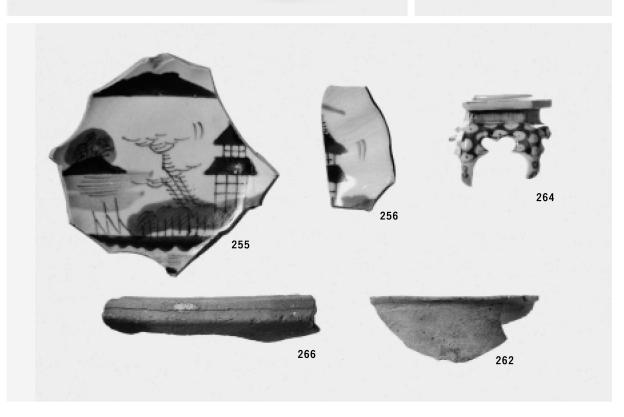




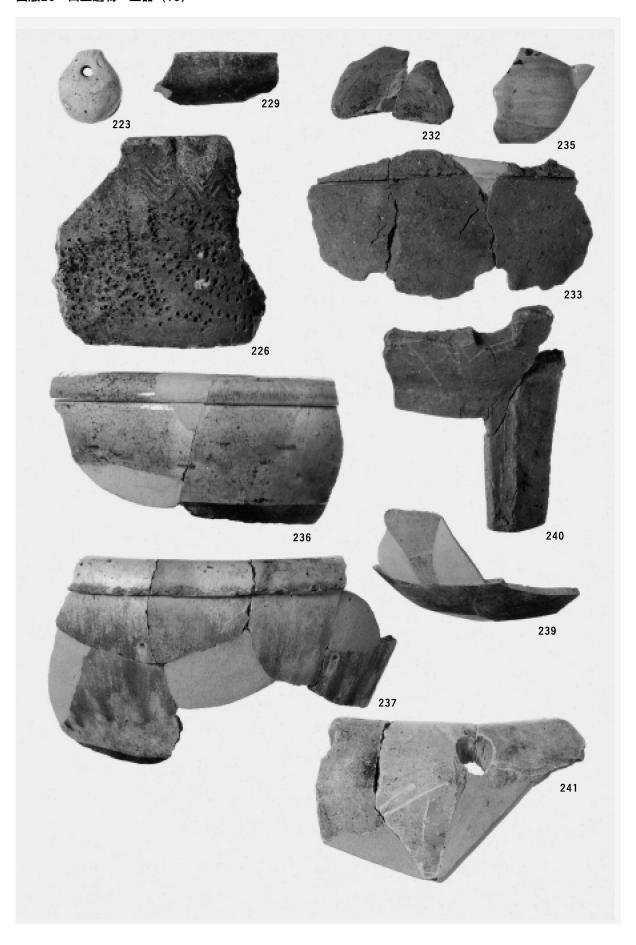


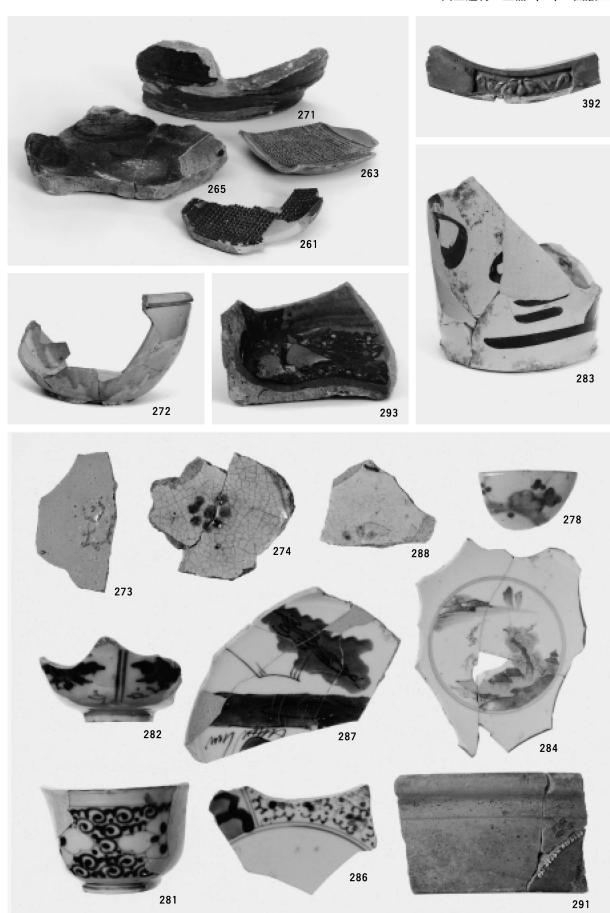
出土遺物・土器(12) 図版25



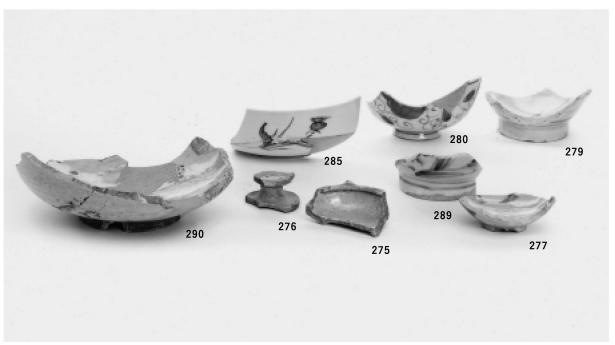


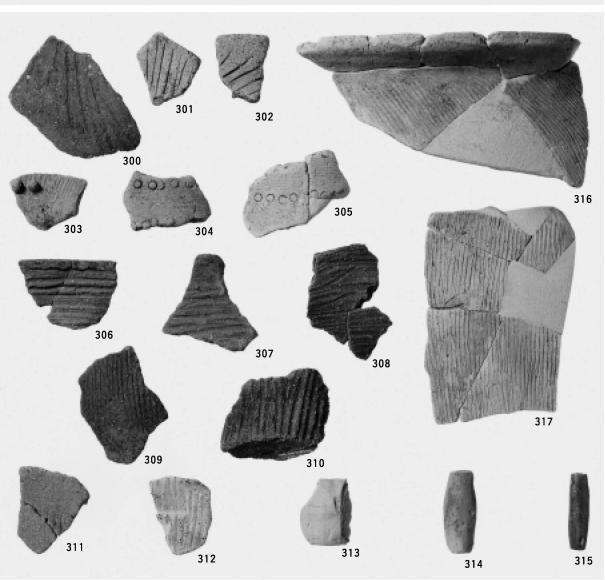
図版26 出土遺物・土器(13)

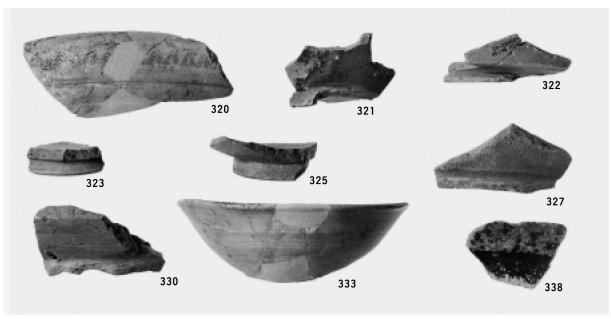




図版28 出土遺物・土器(15)



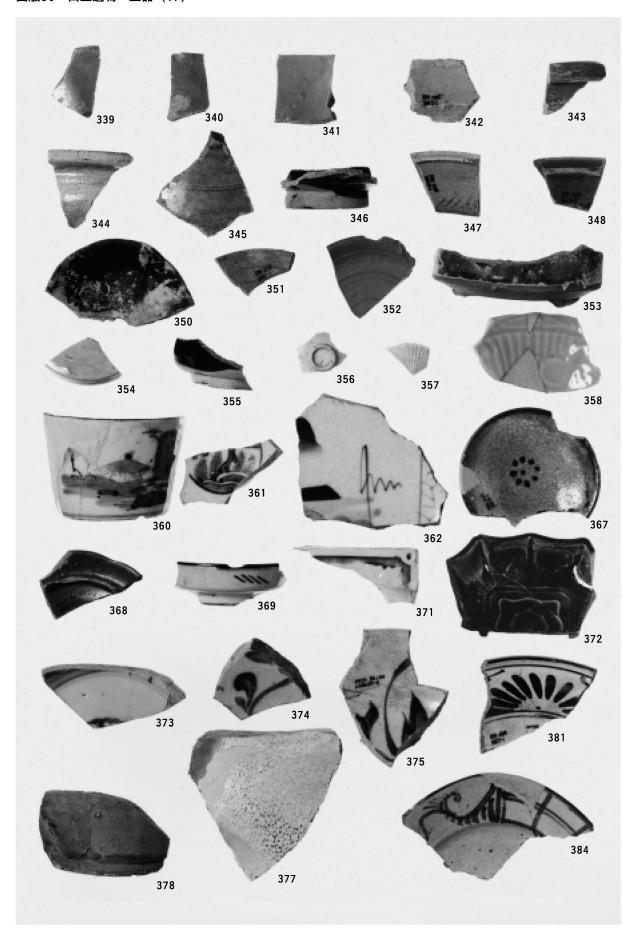






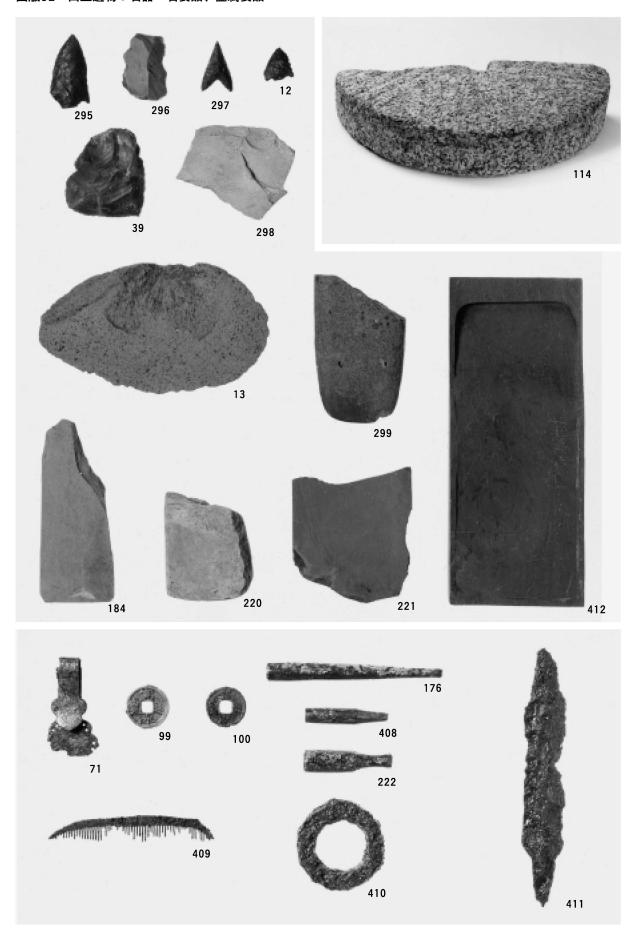


図版30 出土遺物・土器(17)





図版32 出土遺物:石器・石製品、金属製品



報告書抄録

	 								
ふりがな_	いわたひがしAいせき								
書名	岩田東A遺跡								
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター調査報告書								
シリーズ番号	第120集								
編著者名	近藤正枝、北村昌弘								
編集機関	岐阜県文化財保護センター								
所 在 地	〒502-0003 岐阜市三田洞東1-26-1 1年058-237-8550								
発行年月日	西暦2011年12月 1 日								
ふりがな			ード	北緯	東経	調査期間		調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号			調査面積			
いったひがし いせき 岩田東A遺跡	ぎょけん	21201	07164	35°	136°	20090430~2009	1214	記録保存調査	
	が ない し			26'	50'				
	岩田西			41"	08"	2, 148m²			
所収遺跡名	種別 主	Eな時代	主な	遺構		主な遺物	特記事項		
岩田東A遺跡	集落跡 弥生時代 方形		方形周溝墓	甚 2	基。弥	生土器 267点	弥生時代の方形周		
	墓		勿跡 2	棟 土	土師器 458点		溝墓2基と、安土		
	江	L戸時代	柵跡	3	列 須	須恵器 242点 ・桃山時代の		公山時代の布掘	
			溝 1		条灰	釉陶器 87点	の区画溝などを検		
		土坑		122	基 帕	世陶磁器 2582点 出。			
			柱穴	229	基 近	世以降瓦 515点			
				な	ど石	器・石製品 57点			
					金	属製品 63点			
	岩田東A遺跡は弥生時代中期から近世までの複合遺跡である。弥生時代後期								
	の方形周溝墓からは、近江系の甕・高坏、赤彩のある壺が出土している。特に								
	甕は周溝の底に据えた状態で出土している。弥生時代中期後葉の方形周溝墓は								
	周溝の残りが悪いが、周辺から高坏・壺・甕が出土している。これらは段丘面								
	上にあり岐阜市内における方形周溝墓の墓域北端に位置すると考えられる。								
要約	安土・桃山時代の溝は深さが60~80cmと深く土師器皿が63点出土している。								
	この溝は布掘の溝で、居住域を25m四方で区画している。布掘の溝には塀や垣								
	根があったと思われる。中世後期の遺物はこの区画溝の内側に分布している。								
	区画内に確認できた掘立柱建物跡は2棟である。								
		当調査区では弥生時代には墓域、7世紀後葉~8世紀初頭と10~11世紀には							
		集落域、中世後期には溝で区画された屋敷地、近世では集落域となり、時期に							
	よって遺跡の性格が違うことが明らかになった。								

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第120集

岩田東A遺跡

2011年12月1日

編集・発行 岐阜県文化財保護センター

岐阜市三田洞東1-26-1

印 刷 有限会社 もとすいんさつ